

増補訓蒙図

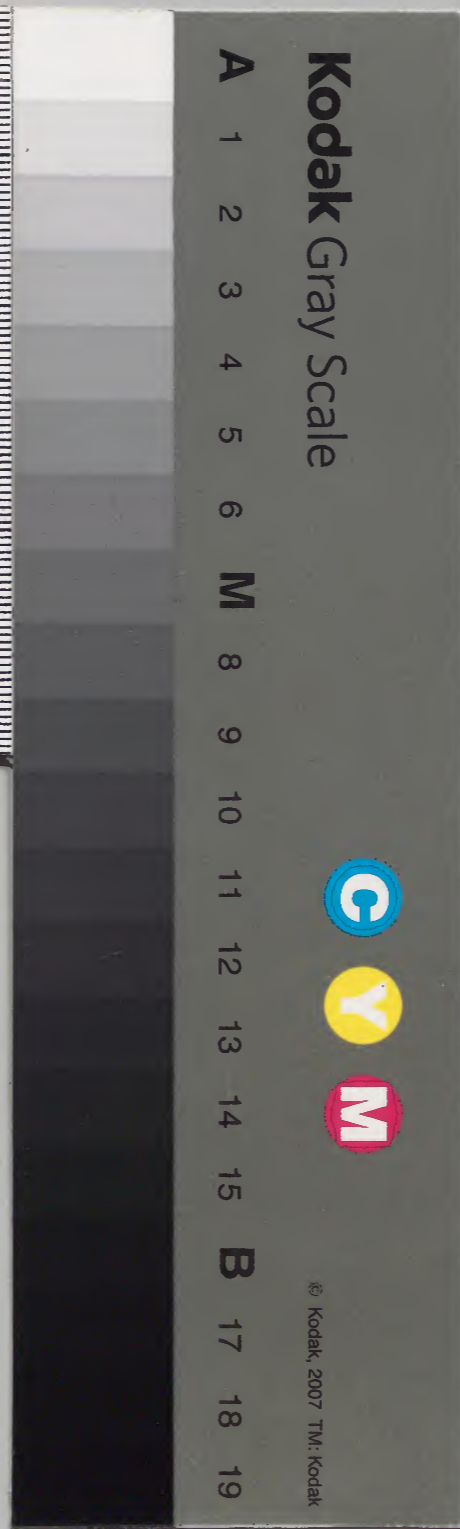
中

和書門			
三冊	八架	九一函	二七二七號類

庫文閣内			
三冊	二七二七		和書類
四架	三冊		

(三冊)

内閣文庫	
番號	和 27227
冊數	3 (2)
函號	210 5



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

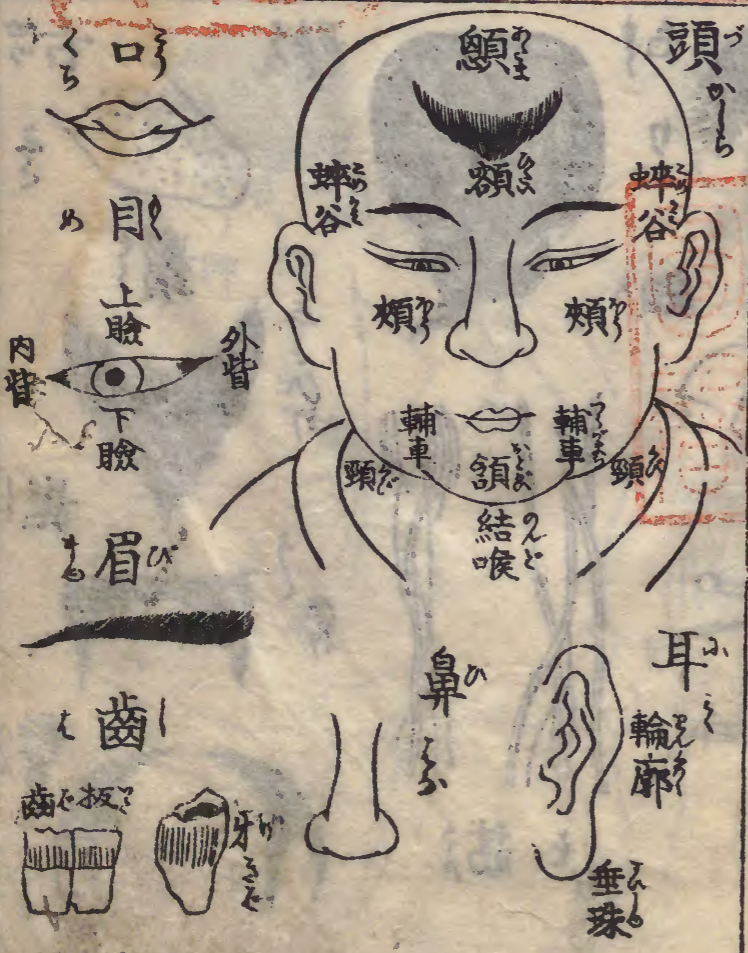
頭書增補訓蒙圖彙卷之五

明治十二年購求

身體

此部は耳目鼻口毛髮頭足のまゝなり
 とて人の身のうへにあらはれり

○頭頂顛額髮谷額頰輔
 車領頸結喉この下唇
 黒子黒痣皺やま首同
 ○口吻明りふらふら
 とらり唇からび人中
 ひとる
 ○目眼の肝の臓のつら
 ぶるあり睛眸眶眼外
 皆内背眇翳淚雀目近
 視瞽眼
 ○耳の腎のつら



頭書增補訓蒙圖彙卷之五

輪廓のその垂珠を
 たる耳門のその完
 骨のそのの町睥を
 を睥耳のその聾を
 みをい
 ○鼻の肺のつら
 かるを類とふら鼻
 同準とふら鼓鼻を
 くらを洩とふら血
 こちあり
 ○眉本をふら眉
 とつと
 ○歯の骨のその腎の
 ごとあり牙板齒
 齒齒齒断齒重
 ○舌の釋名に舌の



食物と卷制して落さ
 る心臓の吐は
 き心の臓をさ
 ○髪は頭髪より胎髪
 髪をいみ
 ○鬚の釋名小秀あり
 物成て秀人成て鬚生
 と鬚をいひけ
 ○髭字彙に髭は口上
 のもと髭といふ下は
 と鬚といふ頰ふの
 とつていふ
 ○鬚の額旁に鬚を
 同鬚といふ蟬鬚とい
 ○筋の絡脈より肝の臓



のつらさなるあがり色ゆ
 醋とのり筋ゆき
 ○毛血ののり多う毫
 向肺のつらさなるあがり
 旋毛つら皮を層と云
 皺と云
 ○顛の頭骨なり顛會と
 頭のつら骨髄と云れり
 骨腦のつらさ
 ○骨の肉核なり散同髓
 のつらさなる節なり
 ○腹缺盆胸肋鳩尾
 脐小腹乳肚前陰陰
 莖陰囊脂似なり
 ○背頂肩膊胛胸腰
 膝尻腎脊脊



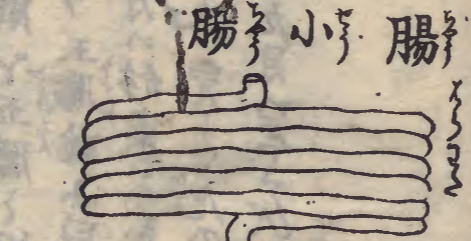
○手掌のつらさなる腕の
 つらさなる臂のつらさなる
 のつらさなる肘のつらさなる
 ○脚足同膝なる腿の
 膝のつらさなる膝のつらさなる
 のつらさなる踵のつらさなる
 ○指大指小指ゆび指同食
 指のつらさなる指のつらさなる
 びと將指もつら無名指も
 つらゆび指もつら無名指も
 ○拳の手と屈るなりゆびと
 つらゆび指もつら無名指も
 ○乳説文ふ人ゆびもつら
 つらゆび指もつら無名指も
 つらゆび指もつら無名指も
 つらゆび指もつら無名指も



○助の釋名に助の助あり
 五臟と檢勒するゆゑ也
 心は五臟のうちより七
 一身の至多胸のあり
 にあり色あり火あり
 ○肺は五臟のうちより胸
 のあり色あり蓮花とる
 けのあり色あり
 六葉兩耳あり孔ありて
 よく音をいひ痰と生
 ど色白一金あり
 ○脾は五臟のうちより主
 多り食をくらかり色黄

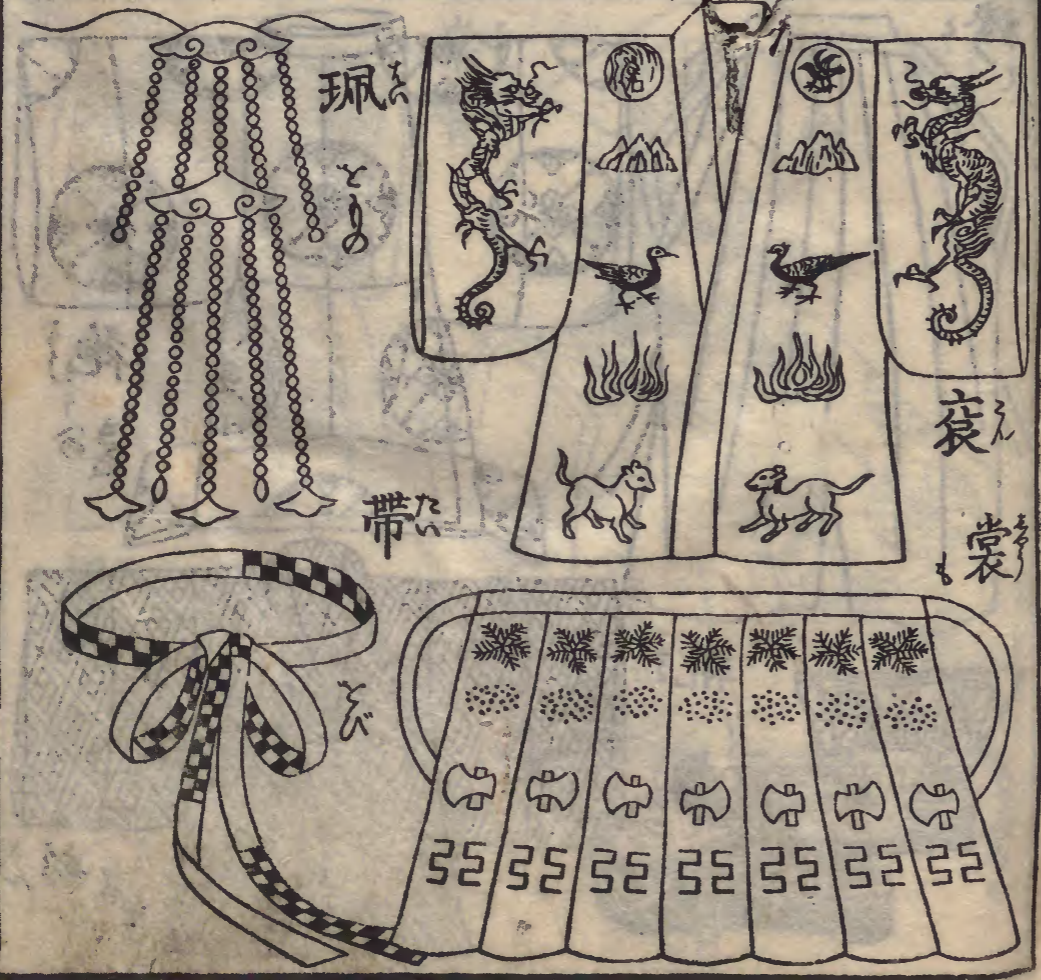
かゝる腹の中腕ふあり
 ○腎は五臟のうちより
 腰にあり水あり色あり
 一のあり卵のそとあり
 にあり腎あり右あり
 命門あり
 ○肝は五臟のうちより
 左のよりあり本あり

腑 臟

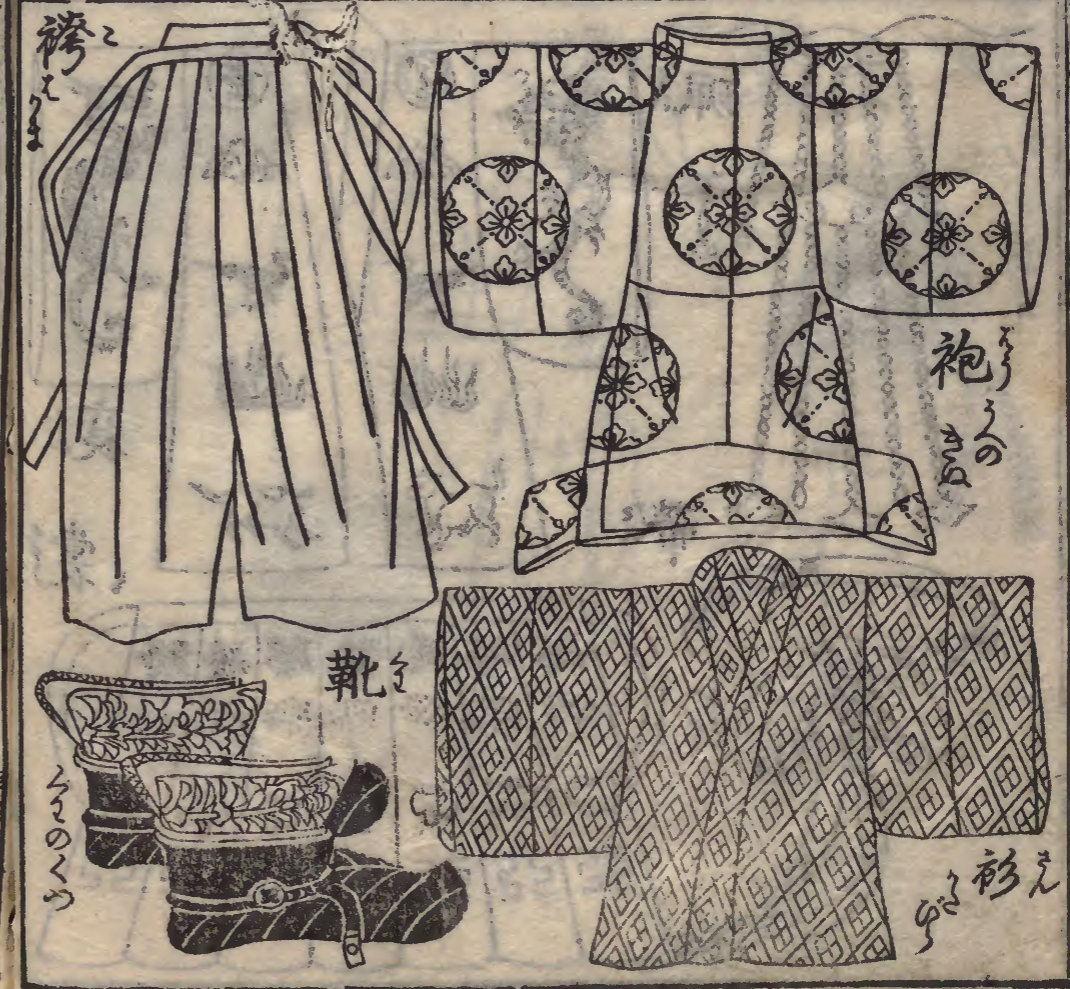


○ 僕後周武帝の法より
 幅巾と裁して脚と出せ
 ○ 綾の細なる領の下にききお
 ○ 巾の頭巾よりその制を
 かり方なる依巾といふ
 かりを帽と云ふもなり
 ○ 帽の頭巾より唐に上
 官より下官にさるるも
 帽とさる冠の下にさるる
 ○ 帽子へ僧の冠を鉢會
 法事のしるるなり
 ○ 公の板より天の
 諸候の家牙をまゝ
 作す木箱と云ふなり
 ○ 烏帽の紙よりつるる
 てぬくつるなり
 ○ 右の五位に上りて
 侍候の六条の緒に
 已下紙の緒を
 ○ 裳の天の布を
 一に於二ふ三に花
 火五ふ虎の
 藻七は粉米八は
 粉米九は
 粉米十は
 粉米十一は
 粉米十二は
 粉米十三は
 粉米十四は
 粉米十五は
 粉米十六は
 粉米十七は
 粉米十八は
 粉米十九は
 粉米二十は

○ 裳の上と衣と
 ○ 佩の官人の腰に
 かりとふ
 ○ 五寸の
 わり



漆とこの向ふかまひ
 ○帯の字のくちろ柄玉と
 はあぐのくちろありの帯
 わり下帯は掛帯あり
 ○袍の字の襦袢多き
 今朝廷(出仕)のよれと
 服を袍とよふふるこも
 ひととる服と細袍とよふ
 めつとよふ袍とよふ
 ○衫の小袖方とよふ
 襦袢多きと衫とよふ
 紗衫布袴備袴あり
 類おかしと服の下若かり
 ○袴と服衣多しとよふ
 袴あり腰積むる袴
 上下とよふと袴とよふ
 て袴とよふ
 ○靴の革のくちろあり
 おもひとよふ石の靴
 木の靴これあり目下
 ての靴乃靴とよふ官人
 僧力の靴の異あり
 ○裾の夜塗のわらふとよふ
 のあり俗ふとよふの尾
 りあり
 ○裾の婦人のわらふとよふ
 方を帯にほくろへし裾
 もわく裾もわらふ若
 りあり
 ○半臂の楽人(文)とよふ
 かなふあり袖のゆきほ
 かしとよふ半臂のわらふ
 かづくあり
 ○奴袴のさし(母)のさし
 禁中(はく)女中のさし
 うはかり女のさし



貞世曾南川装圖卷下
 三

○幅巾の白はきぬあつ
 くと深衣とを緇布冠
 若くあはれぬつと冠上
 とつひたつ唐の裳と
 ○緇布冠はきぬのそ
 ほくたつ
 ○懐のひのひより懐巾
 とつひたつひのひと懐
 架とのひ
 ○懐の紅絹ゆく額と抹
 とつひたつひのひと懐
 肥衣包袂
 ○履の草と履との麻と
 履との皮と履との木
 とも木にてつと
 ○被の寝衣より俗に夜
 着といふと寝襦ともい
 又被襦
 ○毛裘の鹿と狐の皮を
 けり衣服より寒氣を
 よくふと異物ゆく上人
 冬月これとさる
 ○深衣の儒者の衣と
 衣服より白布ゆつ
 くる帯も白
 とつひたつ帯のひとひと
 圓心又黒及よまひも
 ○延衣の小児のよまひ
 ひたつ帯同
 ○裏脚のひたつ脚
 絆より裏脚の裏脚
 よより又腰巾行纏行
 藤のひたつひとひ
 ○帷の上下四方とも
 幅ゆく文室にゆく
 るを帷といふ大ねの居



貞書目蒲川家圖卷六

毡衣あり
 ○浴衣のゆきびりかきうす明
 なももあかり又ゆてのさひ
 と浴巾といふ
 ○藪蓆しきをかきこころを
 まかたきり鞆同
 ○鞋の糸鞋麻鞋わら草鞋
 の蓆とも麻ともまへ
 ○履の本履なり俗にあし
 だしのへんかき履糸を云
 ふ鼻繩といふ又揮といふ
 あり香中にも材料あり
 ○囊衣わりの囊といふ底
 かきこころをといふのふく
 ろかり袋衣也
 ○道服の道者の衣服あり
 胸服といふわき俗にこまて
 えのりといふ

頭書増補訓蒙圖彙卷之七

寶貨

此部小の金銀珠玉銅鉄石甲錦
 鏤綾羅とて二さいの寶とわらひ

○金の紫磨黄金少金
 どわり目をいふはし
 具ありりあり鍍金あり
 あり
 ○銀の白銀かり南鍍銀
 鏤あり俗にまらたを云
 又銀鍍といふのひあり
 ○鍍の青金あり鍍あり
 かり俗にふすまありと云
 白鍍同鉛とて丹あり
 ○鐵の黒金あり鉄同銑鐵
 ありはがの鏤同鋼鐵とい
 かに鏤といふあり日本に



頁書曾有用川東國...

○珊瑚の海中の珠ありつら
 わり鐵網とつらとを
 七寶の一つあり
 ○磁の細研石あり研と書
 一黄磁ありせどあり
 ○礪の鹿虱石ありわらと書
 礪と書
 ○紗の金紗銀紗紋紗等
 わりつらとつらとつらとつらと
 かつらとつらとつらとつらと
 ○耐本同の筋あり織物
 税糸に侍のきる服方々
 又後役者かきもきりあり
 ○錦の五色の糸と織て錦
 とを俗ふつら金襴の織
 ○繡の五色の刺文あり
 といふ
 ○絨の細毛布ありその厚分
 ちおぬ天織物といふ襦
 子襦袢兜羅綿みま毛
 布なり
 ○紅染の紅あり紅梅緋
 桃色中紅茜ありわら
 といふあり
 ○加賀絹の加賀絹あり
 つらとつらとつらとつらと
 ○穀の縹紗あり今つら
 めんあり俗に縹緞と書
 ○縹子の五色の縹あり
 ○縹珍の五色あり縹瓜
 りあり縹あり
 ○綾のわらあり又綾子
 花綾の紋綾子あり光
 綾のわら綾子あり
 ○絹の熟絹あり生絹と
 書へし熟絹は移りぬ

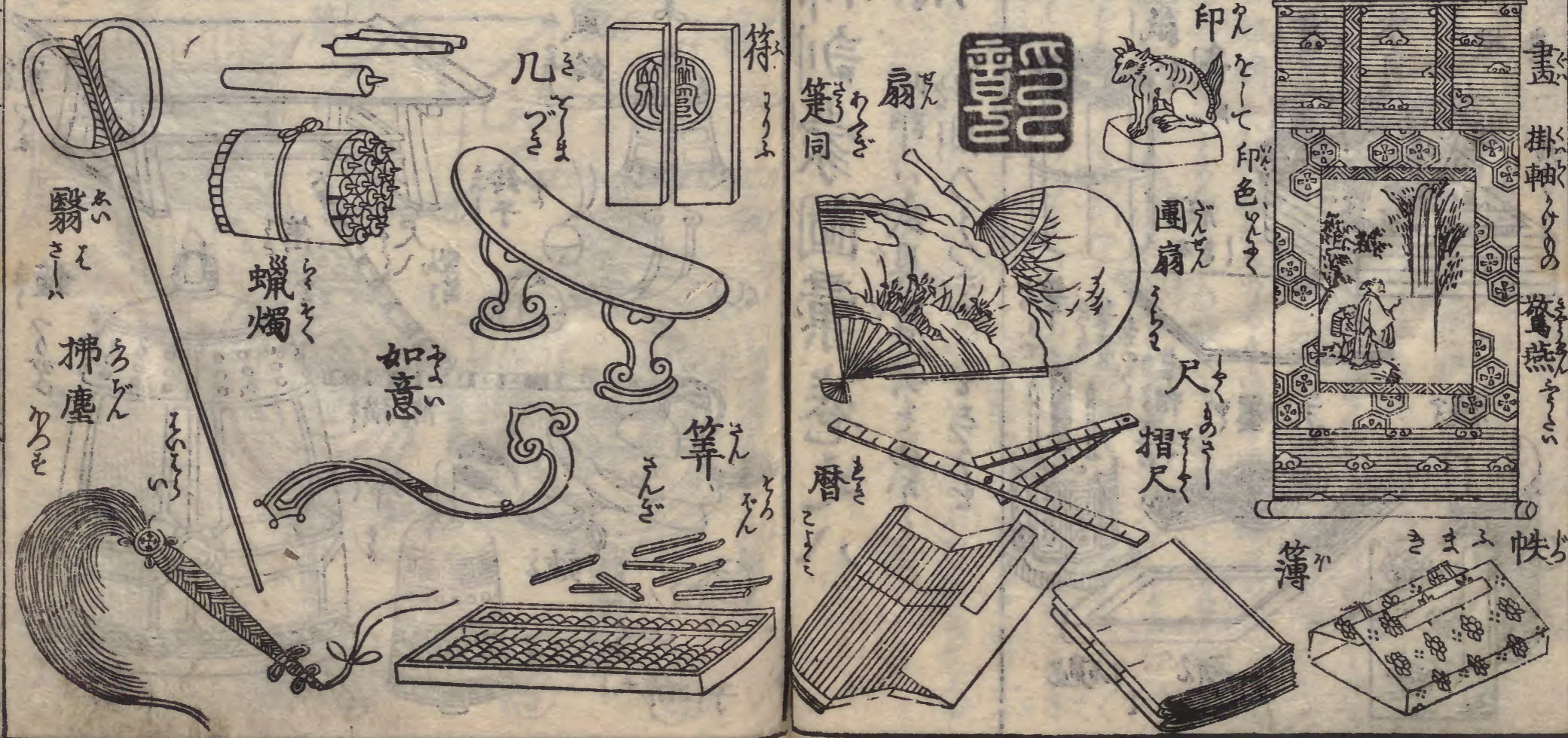
○珊瑚の海中の珠ありつら
 わり鐵網とつらとを
 七寶の一つあり
 ○磁の細研石あり研と書
 一黄磁ありせどあり
 ○礪の鹿虱石ありわらと書
 礪と書
 ○紗の金紗銀紗紋紗等
 わりつらとつらとつらとつらと
 かつらとつらとつらとつらと
 ○耐本同の筋あり織物
 税糸に侍のきる服方々
 又後役者かきもきりあり
 ○錦の五色の糸と織て錦
 とを俗ふつら金襴の織
 ○繡の五色の刺文あり
 といふ
 ○絨の細毛布ありその厚分



頁書曾前川文圖

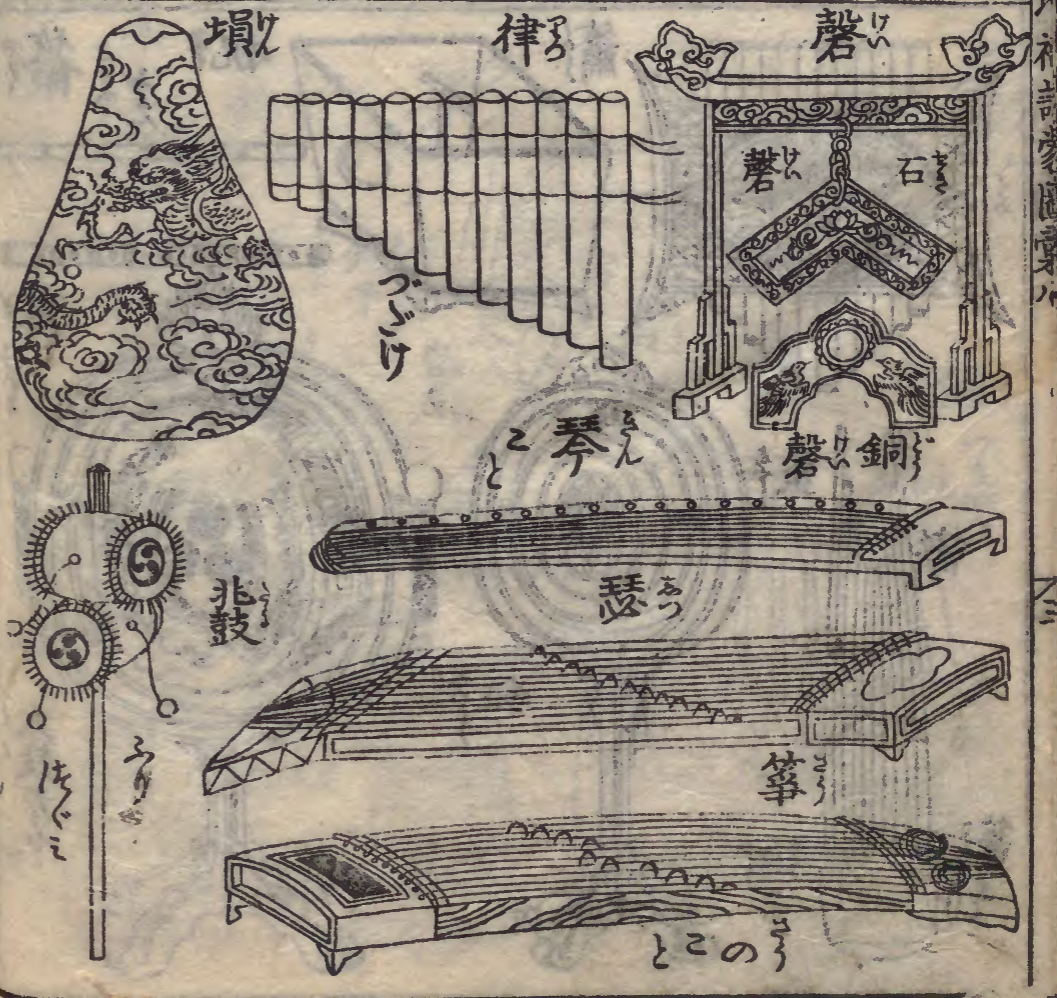
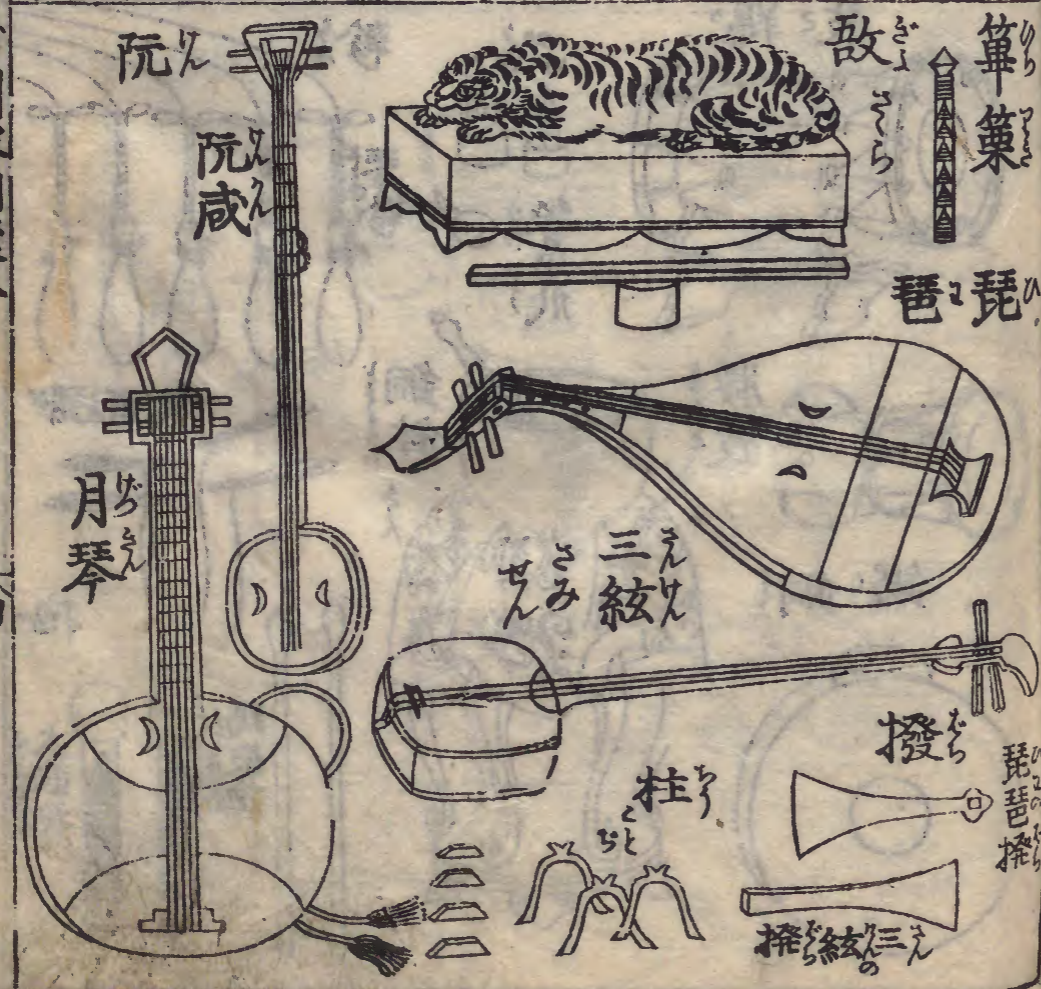
頁書曾前川文圖

○墨の煤、膠、松煙、油煙、松煙、わりの子路、人つら、
 ○書、ひ、竹、を、わ、小、
 刀、を、彫、付、て、これ、と、書、と、
 と、よ、う、て、巻、も、冊、も、云、
 ○裱、紙、方、り、書、の、う、
 紙、方、り、標、同、外、題、之、
 ○畫、繪、方、り、采、方、り、瓜、
 繪、と、唐、中、の、舞、璣、日、
 本、に、て、雪、舟、今、の、狩、野、家、
 其、外、名、人、あり、
 ○帙、書、の、う、包、方、り、表、
 同、ト、又、文、卷、文、画、あり、又、
 書、と、と、て、帙、と、と、
 ○雨、玉、の、王、者、の、印、方、り、必、
 と、り、く、流、る、庶、人、の、金、石、
 ち、て、つ、ら、
 ○扇、舞、つ、ら、め、た、ま、さ、
 衣、王、は、方、り、あ、ら、も、り、月、
 本、は、く、の、神、功、皇、后、三、韓、
 征、伐、の、と、た、蝙蝠、の、羽、
 尺、く、は、ら、り、あ、ら、
 ○尺、粟、より、生、む、十、粟、
 と、分、と、十、分、と、す、と、十、
 寸、と、尺、と、と、尺、の、辨、を、
 ろ、く、る、指、爪、布、て、尺、
 を、知、股、と、の、て、尋、と、ち、か、
 尋、ハ、尺、方、り、
 ○簿、手、板、方、り、事、と、虫、
 ち、と、も、の、方、り、簿、書、簿、



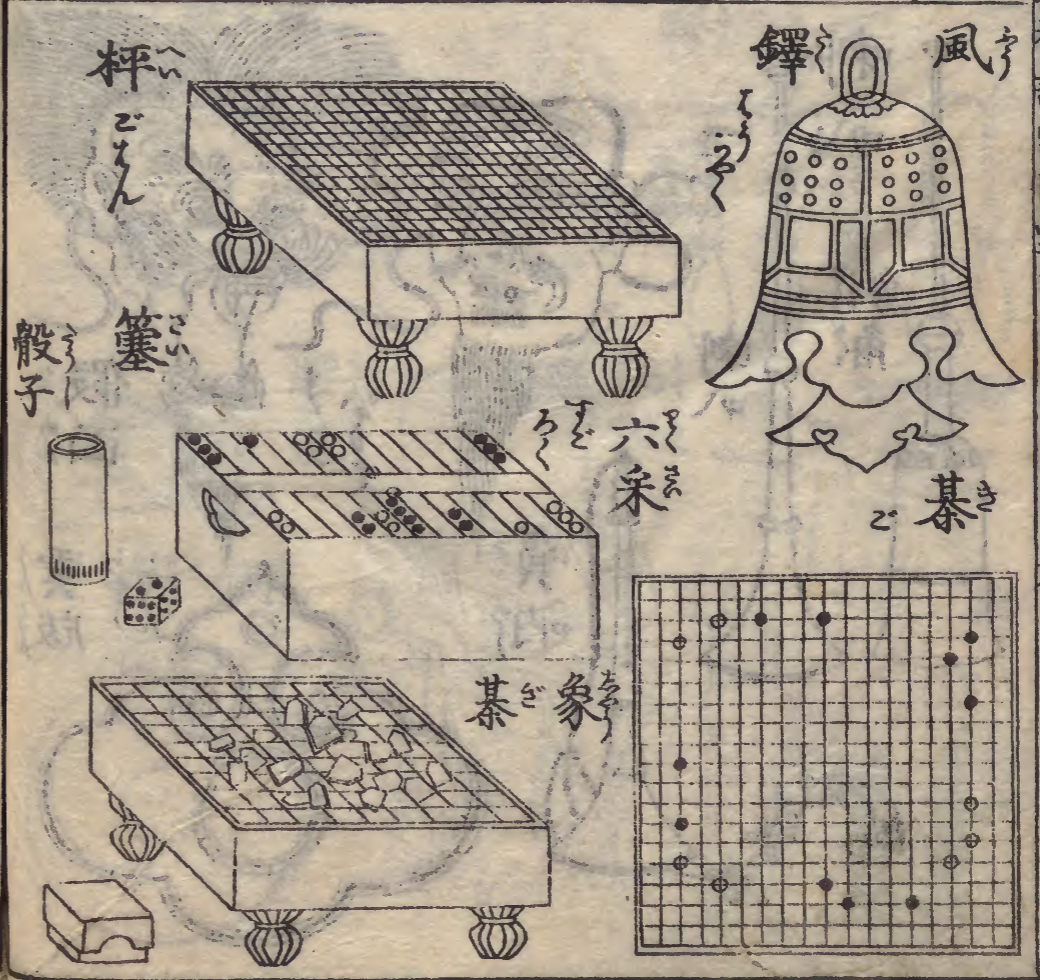
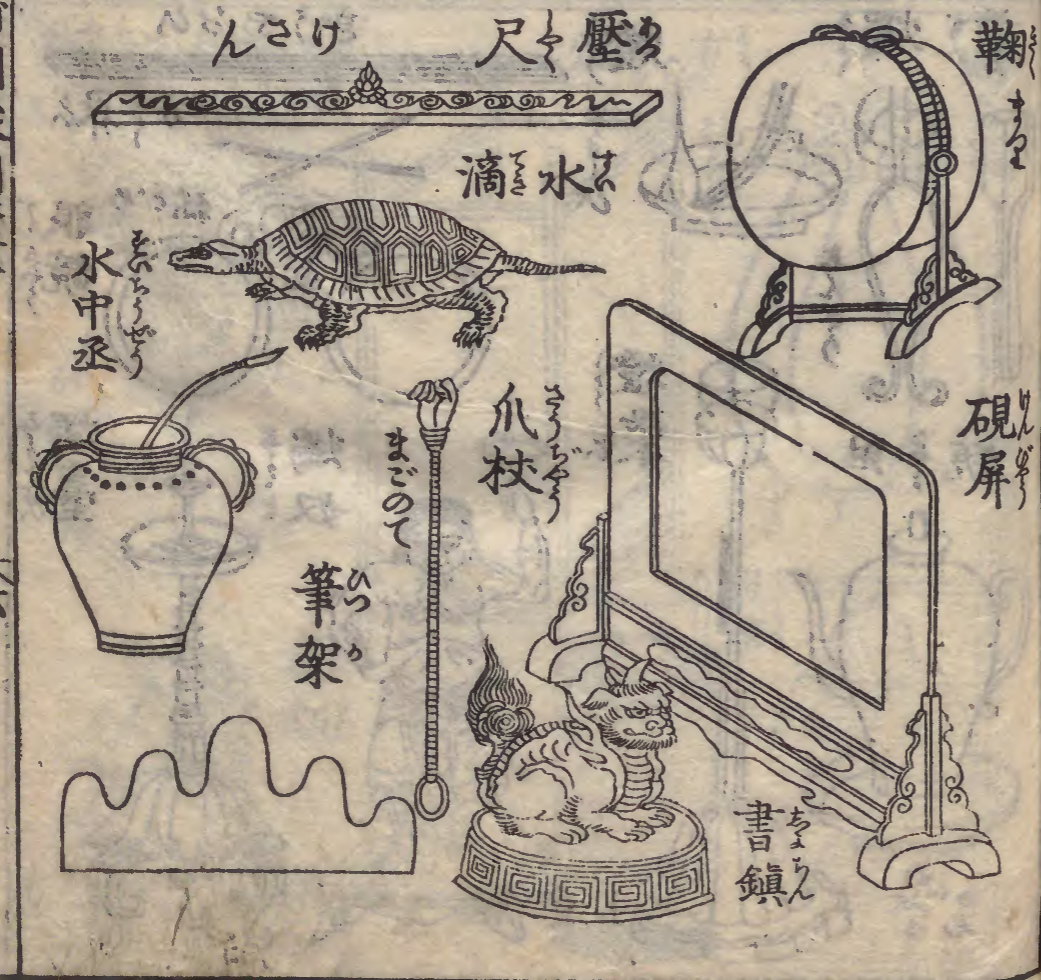
頂書曾南川家圖彙

○笛の遂同ほ武卒の時
 五仲といふものつくりと
 云日本少く天の香久
 山の作少くはく
 ○鐸の金鐸の金鈴金舌
 用法はこまは用日本鐸の
 金鈴本古より支教は用
 ○鈴の風鈴より一名箒鈴
 とし○鈴子といふより一名
 圓鈴といふ
 ○鉦の僧具より銅鉦子と
 拍子より南齊の穆七素
 とり人はとまり
 ○箏の高麗笛よりとる
 とのいいて六の穴あり三
 穴あり
 ○鼓の太鼓より樂器あり
 ○祝の本音なり中に柄を
 こまはうとして左右小
 ちめて樂とがこまのものあり
 ○鉦の小鐘より樂器多
 鼓と節鼓と止り
 あり鐘鼓とがづく
 ○簫の樂器あり小竹管と
 わしてはく鳳凰の習鳥小
 たる大なるは二十三管と
 尺四寸小なるは十六管と
 尺二寸なり
 ○笙の女娼ことつる大
 笙は十九簧小笙は十三簧
 ○磬の丹白氏のつくりしめ
 たるのあり石磬あり銅



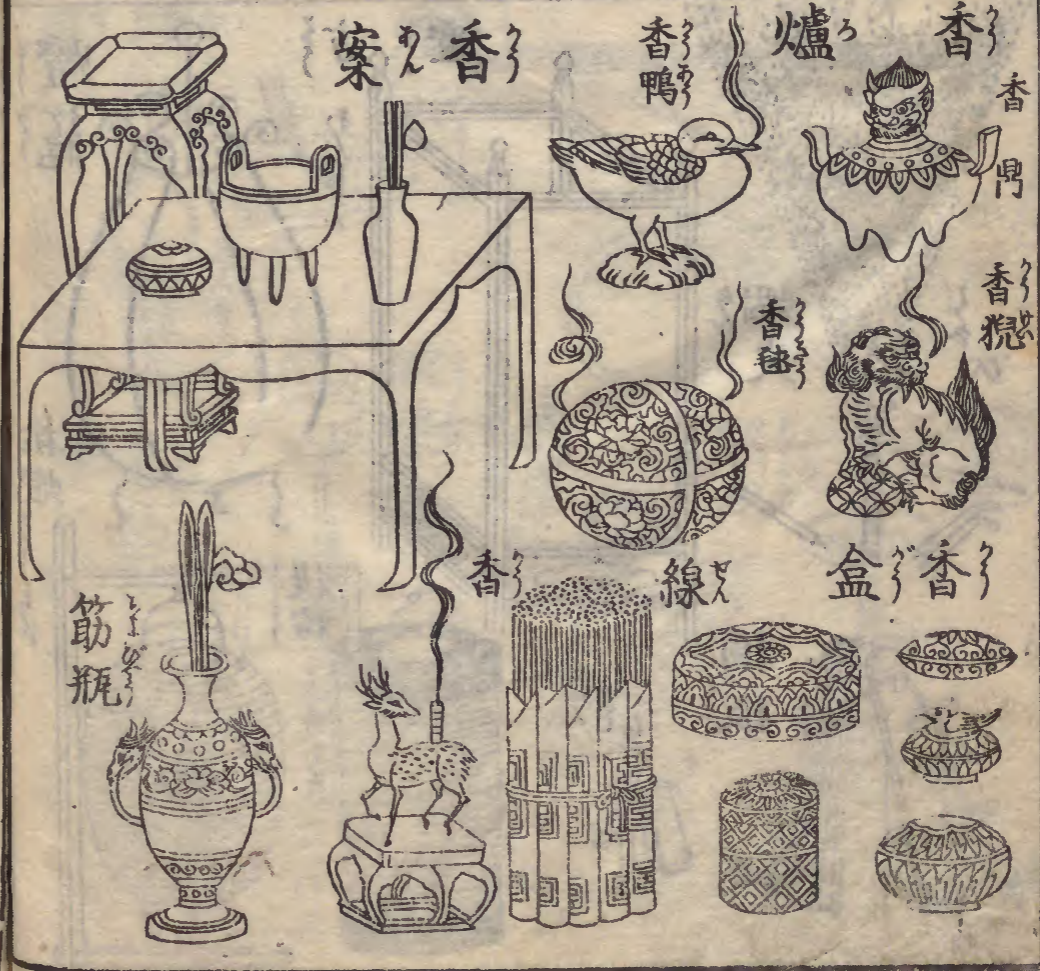
頭書増補詩家圖彙

下ろしと送鼓と琵琶といふ
 上より順鼓と琵琶といふ名
 胡琴漢の王昭君ひたり
 ○阮咸の四柱十柱ありひの
 五柱十柱あり月琴同
 ○三柱の三味線あり三柱
 子といふ琉球國より渡りし
 樂器といふ
 ○撥の琵琶の撥二絃の撥
 羯鼓の撥よりありもちか
 ひ文字もちかひる扶同
 ○柱の琵琶よての柱とちか
 琴にていことちとちか
 とちかちかひあり
 ○軫の琴軫轉手あり琵琶
 三味線よりあり
 ○抱の太鼓のちかちかちか
 ともまへし振撥の琵琶の
 撥二味線の撥なり
 ○繫糸爪のちかちかちか
 つちの義甲假甲を
 ひ小同
 ○銅鉢の僧家にの磬といふ
 きんの唐音あり
 ○羯鼓の樂器あり唐の玄
 宗よりくちて花と催と
 ○腰鼓の腰前よりいふ
 けいこかちのの鼓と指鼓
 といふ
 ○銅鑼の今いふちかちか
 樂器あり一説小臍の鉦と
 いふ



貝書増補詩家圖彙

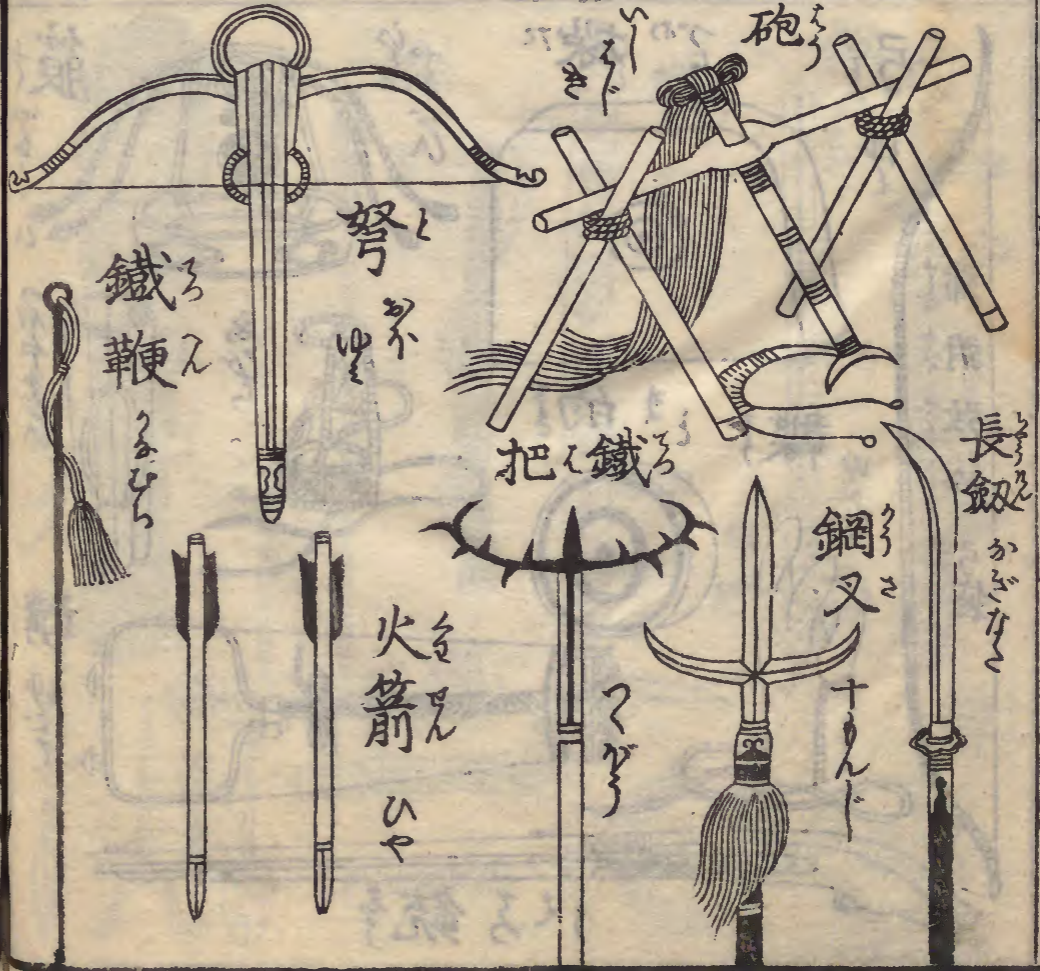
○鞠の虫かぶ頭とてのり
 て蹴りて遊ぶ井とのこの
 家から地下にた近と云
 あり
 ○硯屏の硯のいふふあり
 多屏風あり硯の墨と風
 にるをまてたふ又塵
 ちをたかり
 ○書鎮の風とてのり書
 かさかり文鎮とも歴書
 ともいふ
 ○歴尺の卦筭多具足
 の草摺と卦筭といふあり
 ちいふとてのり卦筭といふ
 ○水滴のいふの硯のいふれ
 かる玉蟾蜍といふの蟾蜍
 のいふとてのり水のいふとて
 又硯滴ともいふ
 ○爪杖の搔杖ともいふ麻
 姑といふ仙女のいふの爪
 のいふとてのり麻姑のい
 ○筆架の筆もいふせあり
 筆格筆峯筆山ともいふ
 ○界方の今といふ極定木
 かん
 ○眼鏡のいふのかり發隸
 ともいふあり
 ○燭臺の蠟燭をいふ又
 燭架ともいふのいふとてのり
 ありあり
 ○燭奴のいふのいふとてのり人
 形ありいふあり



頁書曾甫川...

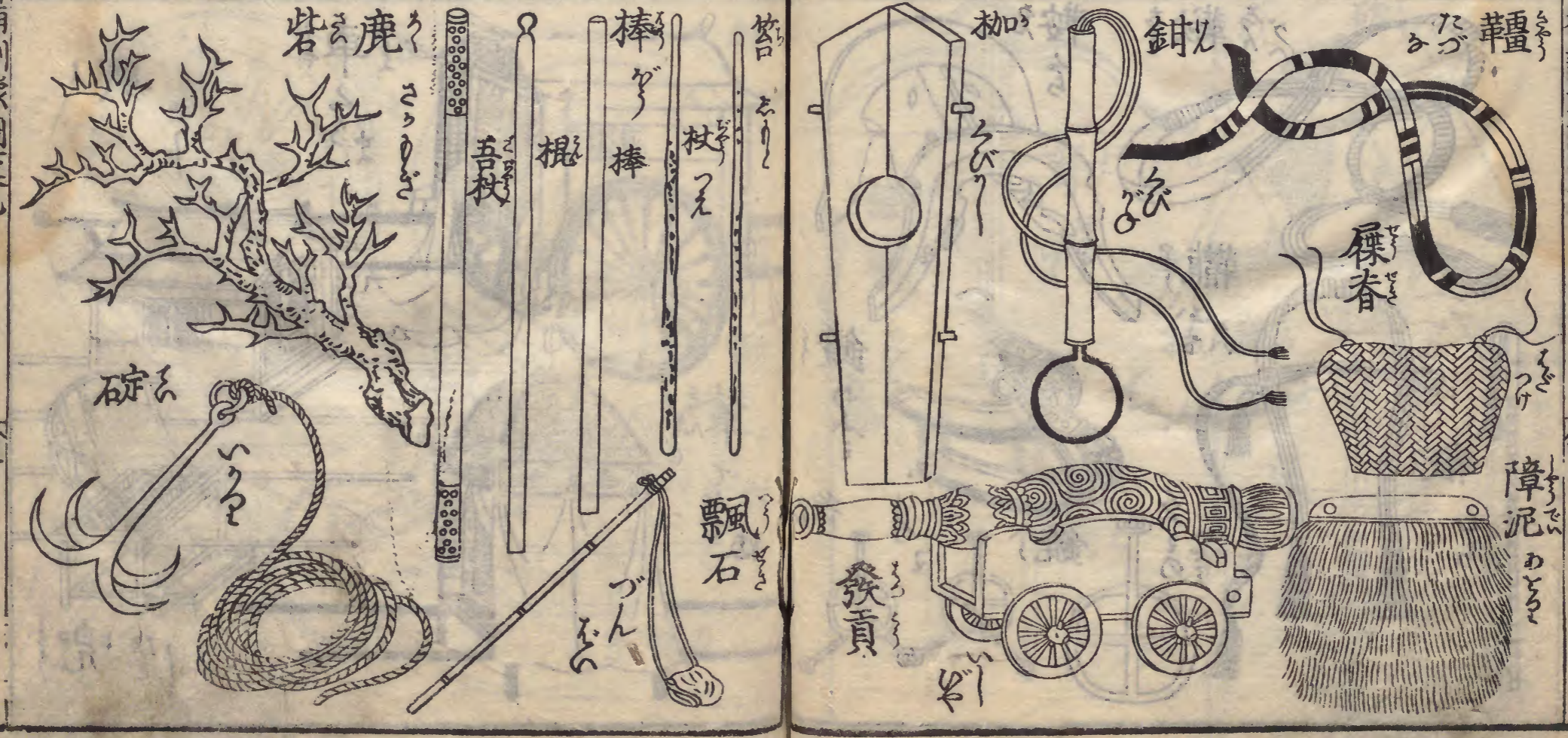
頁書曾甫川...

の多かり弓矢と入る
 ○壺箠の弓矢と入る
 方々の壺の多かり
 するゆへにやまがらと名
 づく名ひともあり
 ○箠の弓矢と入る
 物多かり獸皮と入る
 胡箠も入る箠小矢
 とて事々西と入る五
 節も入るあり
 ○弓の黃帝つくり始り
 日本はくは神代より
 ○的の堯舜の代り
 一ある大的的小のり
 匪泉同
 ○鞞の的鞞の右のむら
 かりあり三指にさると畧
 用あり殊同
 ○鞞の射と矢の臂は
 はくは弦と利とありのり
 捍同
 ○築的のとらるるむら
 かりと入るも書る
 寸法射家小空あり
 ○銃の鐵炮あり鳥銃と
 して波羅多國の佛来叙
 古とありのりありて
 ○砲の機とあり石と発
 ちて城とせしむる具あり
 ○長劔今も長刀あり
 薙刃とも偃月刀眉尖刀



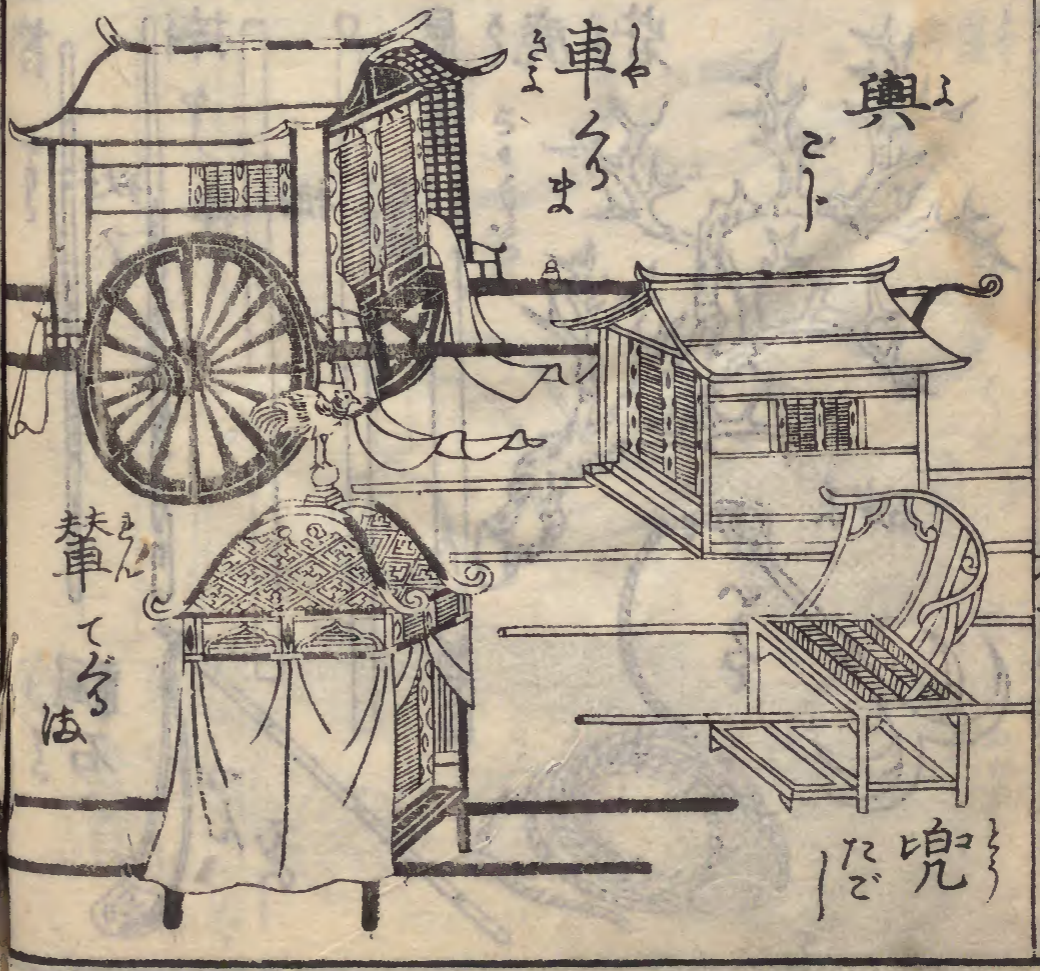
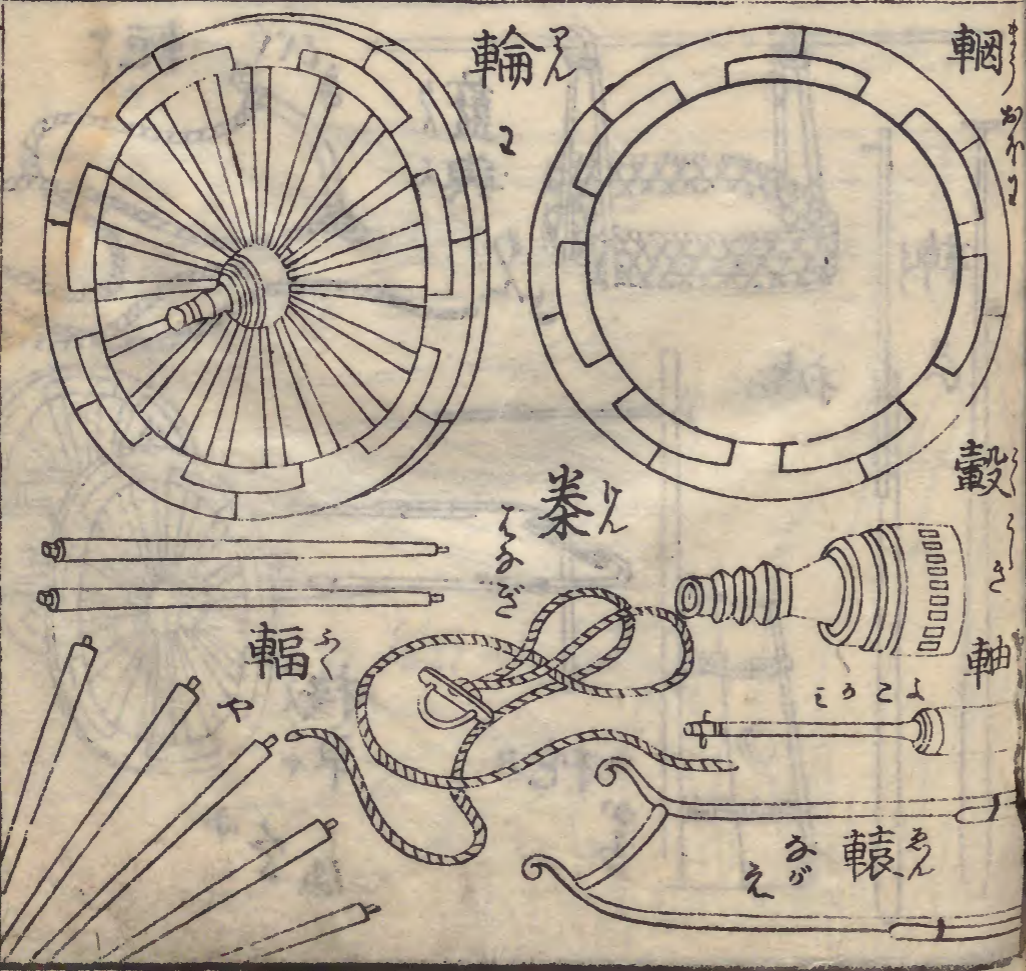
頁五百四十四
 日本書紀卷之四十四

とも書あり
 ○鋼又今の十文字の鎗
 あり又鐘釵ともいふ
 ○鐵把の釵棒 鐵鉈同
 ○弩の黃帝つらりあふ
 楚琴氏始つらりともいふ
 三弓ともいふ 臂につけ機
 とやどこ一郭とよみけ
 に加ふるふ力とありつと
 ○火笠前の敵の陣屋射
 てやぐらひやりのあり炮
 糖火矢大國火矢やど
 わりあり
 ○鐵鞭の雜色のもの
 がうかりうかぶらと
 ○鞍の鞞同鞍橋ともいふ
 鞍の三代のたれ制と鞍に
 名不ふり今思ふ鞍褌
 うらたれ鞍被の鞍あり
 後いふてあり
 ○鏡の鏡の頭逆靴と
 るふの鏡具と頭乃
 輪と鏡具頭と
 ○銜の銜とスうと
 の馬銜あり又馬勒脚
 鐵のび小同馬口乃
 口あり俗にともいふ
 ○鑣の馬口のみあり俗
 につこの口とともいふ
 鐵のもの響同
 ○鞍の馬の尾はともいふ
 ひものあり鉄同當骨



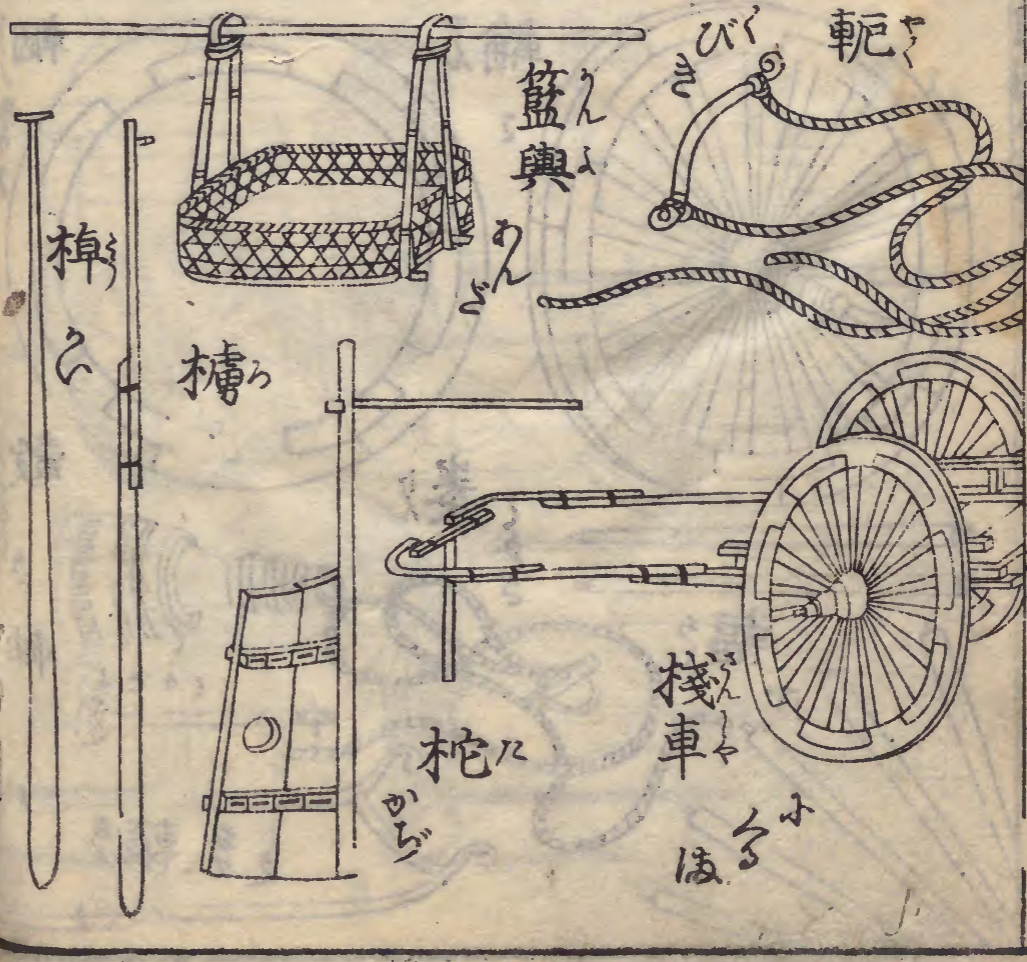
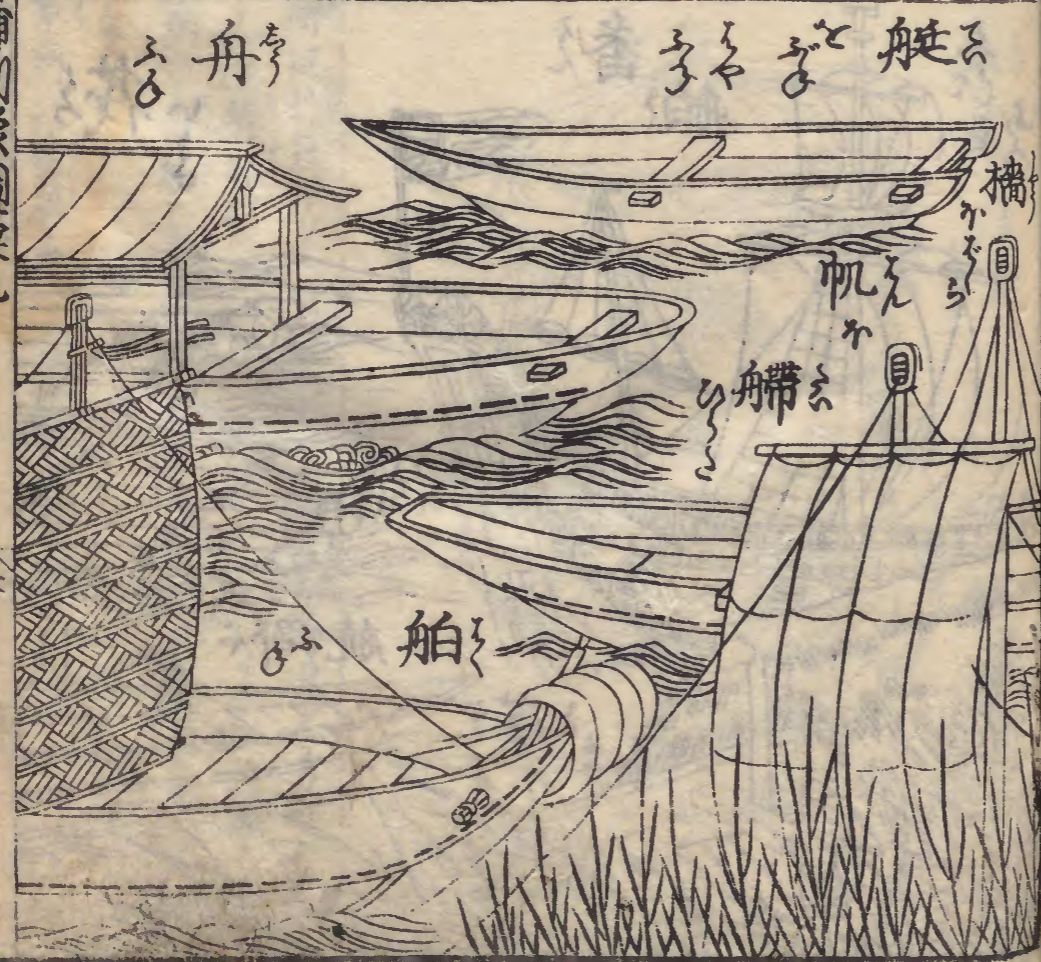
頁書曾補川長家圖

腹帯
 ○韃馬の頭瓜まゝと人飾
 あり又絡頭とも書べし
 ○鞭策策同又櫛と
 も書べし馬のむらあり
 ○韃馬手綱あり口ねあり
 と韃馬のハハ尺二ハ尺二
 三寸のものあり
 ○履脊の鎧のまゝにまゝ
 たるものあり鐵小てつる
 ○障泥の鞍のまゝあり韃
 鞴同熊鹿の皮をて作る
 ○鉗枷とも小罪人と禁
 獄とも具拮拮ともて
 三道具といふ
 ○加へるがががが足城とも
 の拮のまゝあり手拮とも
 もいふ
 ○發首の西漢といふ所より
 つるものなり南蛮より房
 西といふもの日本に献じ
 ○管のまゝあり杖のまゝ
 かり
 ○棒棍も棒あり
 吾杖のまゝあり切本棒と
 ○飄石のまゝありつんがらあり
 又磔若とも書べし
 ○鹿砦の棘木あり地あり
 して人馬のわゆともいふ
 して軍の要害ともいふ
 ○碇の舟に鎮じし石あり
 ととり艇同いふものあり



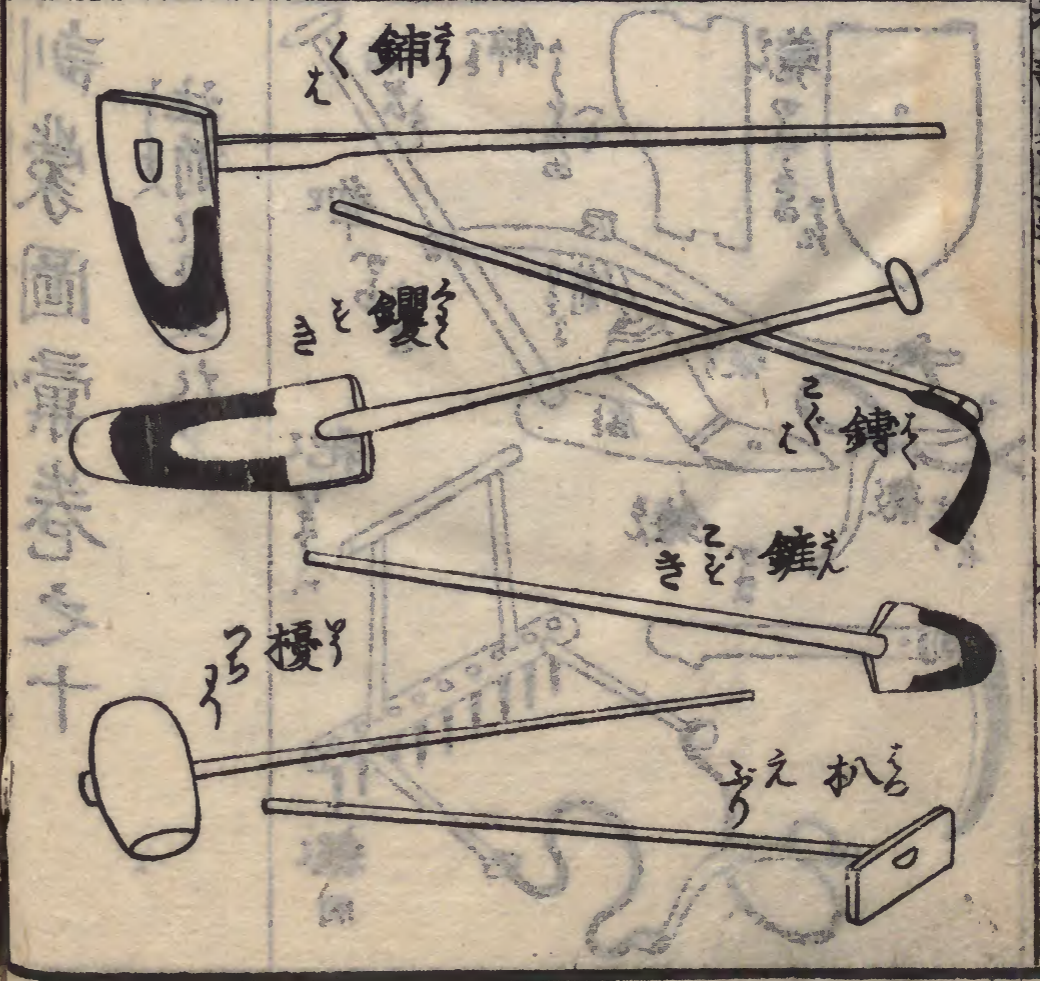
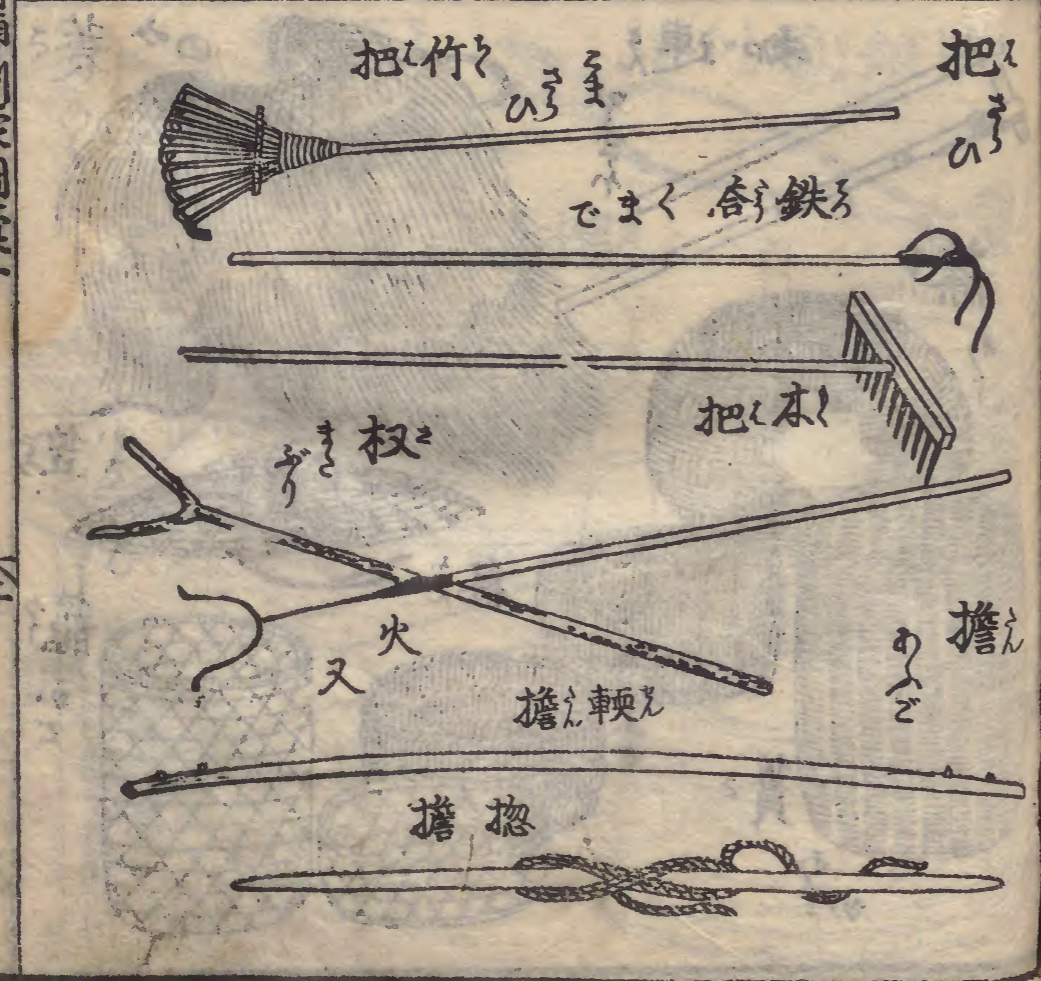
頭書曾補則此家圖集

〇車ハ以吳の牛と駕
 一 禹の馬と駕と今
 圖ハ不日本の五緒
 車ナリ天子女御を乗
 せり
 〇輦ハ天子の御
 輿ハ御輦ハ王輦ハ
 もつ又鳳輦ハもつ
 〇輿ハ天子の御輿
 〇輿ハ天子の御輿ハ王輦ハ
 もつ又鳳輦ハもつ
 〇輿ハ天子の御輿
 〇輿ハ天子の御輿ハ王輦ハ
 もつ又鳳輦ハもつ
 〇輿ハ天子の御輿
 〇輿ハ天子の御輿ハ王輦ハ
 もつ又鳳輦ハもつ



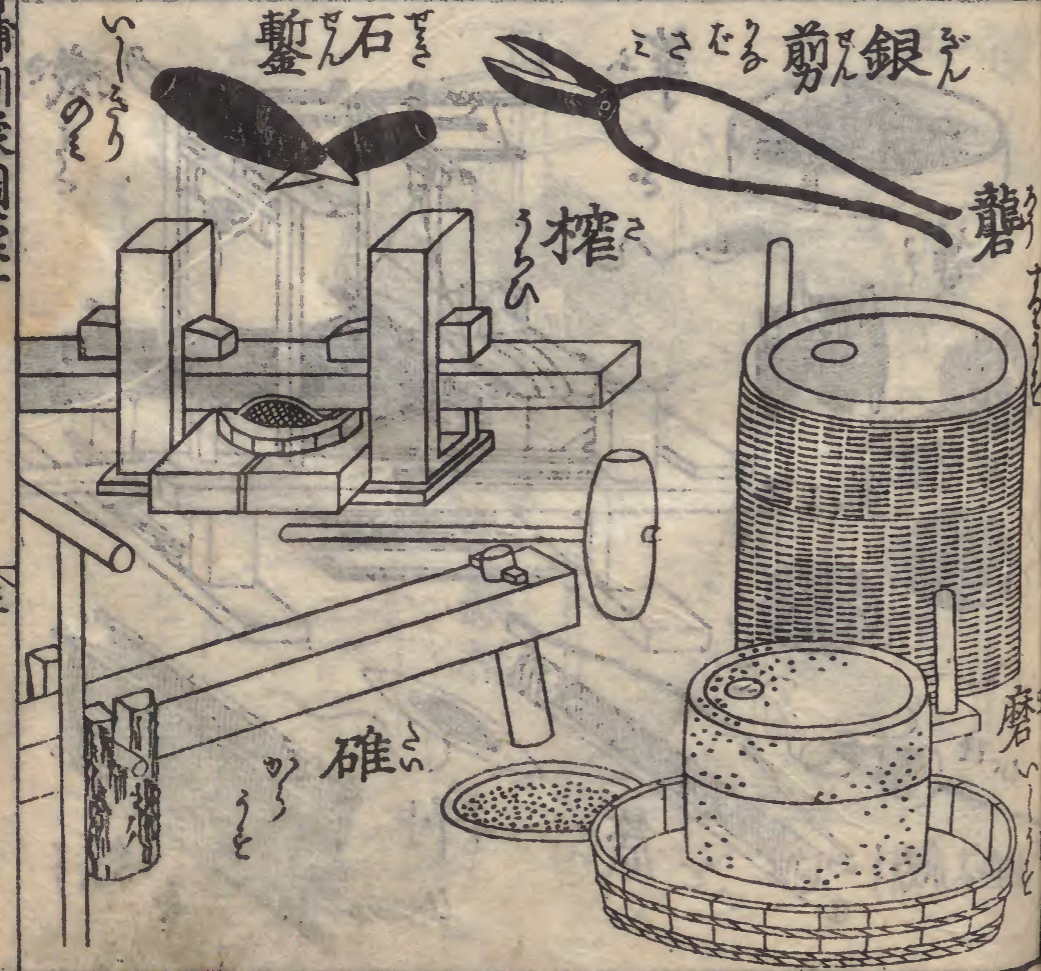
舟
 艇
 船
 帆
 船帶
 舶

○鎌のかま 鋏かま
 新月似磨鎌と杜南
 が詩ふもつらとさうあり
 ○鋪へ鉄金かり
 南西鉄金鉄かり
 〆同
 ○鑿へ大鉏かま
 農具へ黄帝あまを
 洗くろ作て民ふかしく
 て田地とく入しあふ
 錯鑿あふひ小同
 ○鑿へこむと力を
 こむせまは田他の草
 とけし具かり
 ○鑿へやとろあま
 杓とこむとけし杓の
 鑿のたぐひかま
 ○擾へつらとろあま
 擾堀植かりびと同
 ○擾へ塊とろ植かり又
 田を摩器かり
 ○把へ田具かり麥瓜
 かうしる器かりとる
 ひかると本にてつら



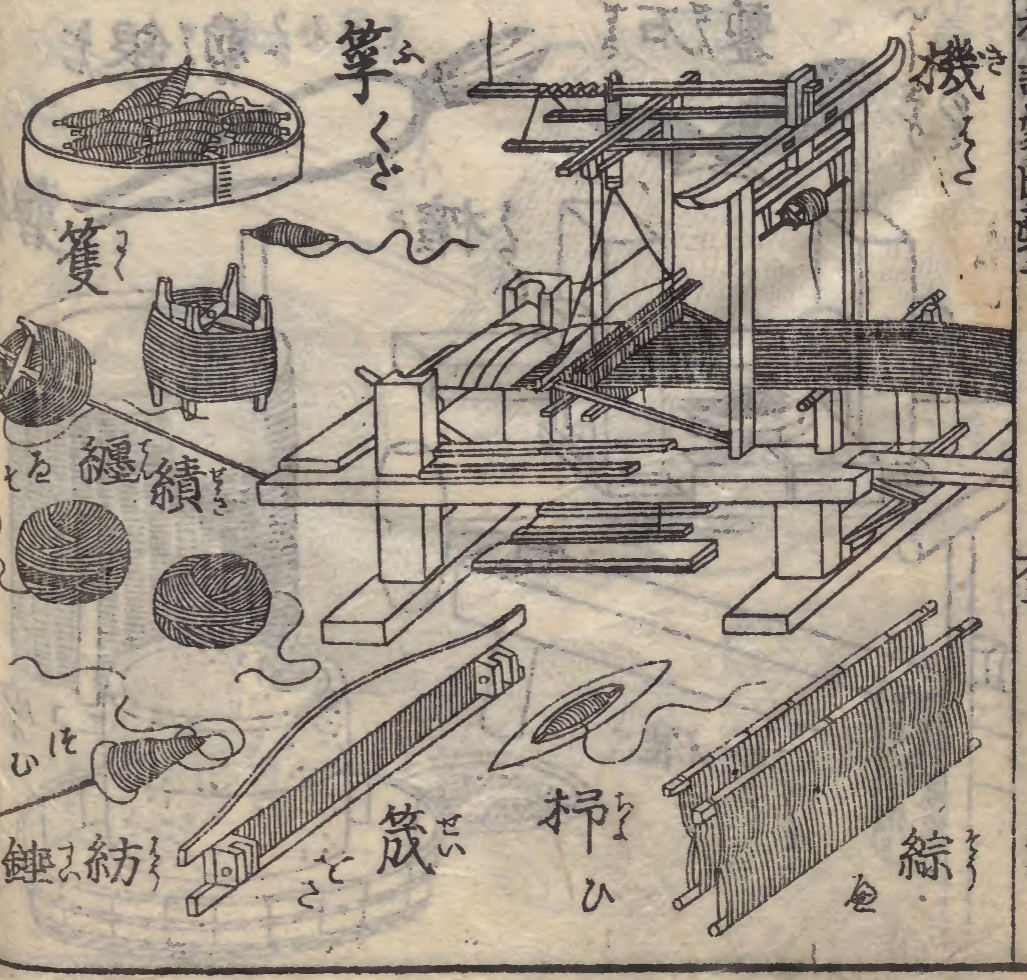
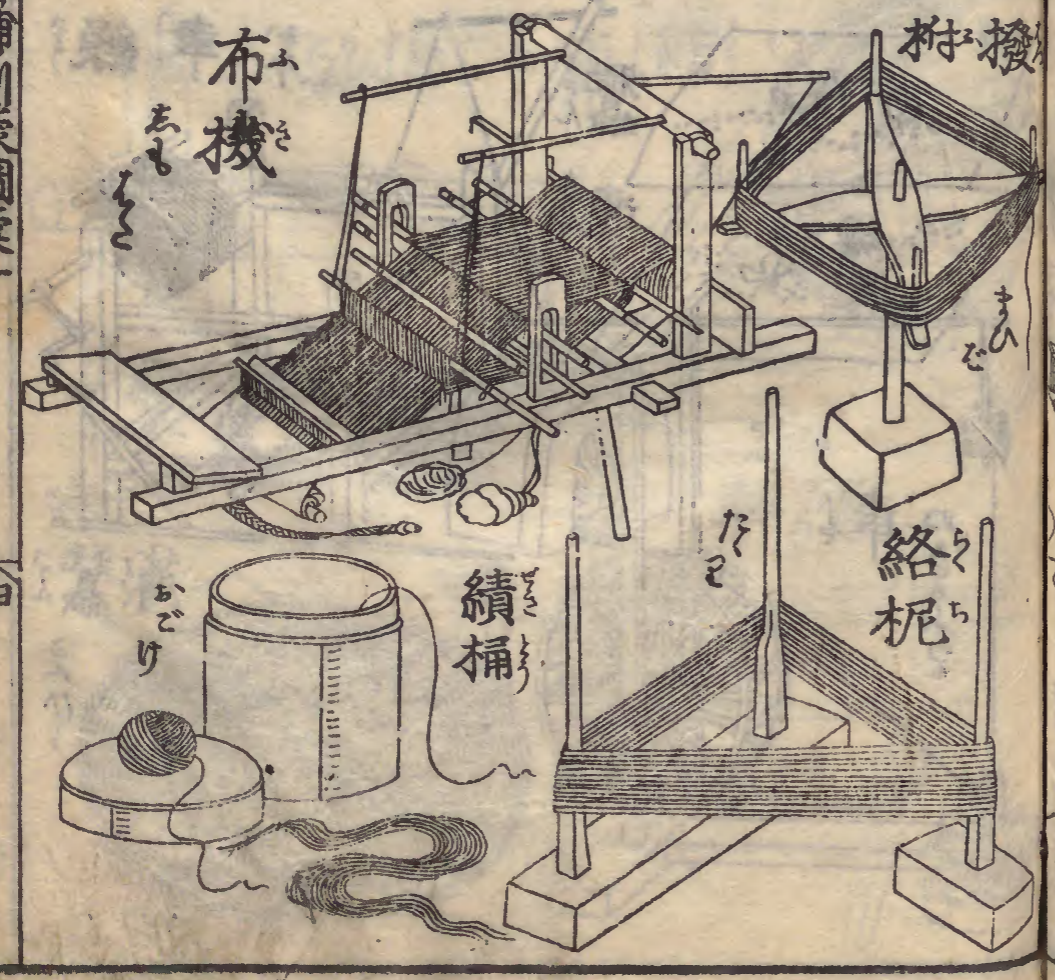
貞享四年
 南西鉄金鉄かり

○鉄塔の塔はけりもつと
 もい俗よふでといふ
 ○竹把はこはういといふ
 ○兼瓜くものあり竹を伴
 ○おの樹同えざりありおの
 杷は齒多きものあり土灰
 うたもともものあり
 ○檐はあふみ多背と肩と
 の河と檐といふ檐杖輦
 檐はまのふを遍檐いたび
 のふざあり
 ○杖は枝本ありまござり
 ○蓑の雨衣より田夫の服也
 みのあり
 ○笠は箬笠より天のつと
 と破天といふ
 ○籠は主とわが器より竹
 ぼくはら
 ○畚は主とりの器より藁
 やく作らるるといふ
 ○蓆は草と去らつたりのあり
 こくやてはら
 ○篋は主とりの器より
 竹よりつと
 ○連糸の麦粟かん瓜ら
 て穂とくく具あり
 ○籠はりといふものあり土
 わのいふ本やつくつと
 碓
 ○磨のみくとももつと
 といふくとももつと精を



貞吉の書川...

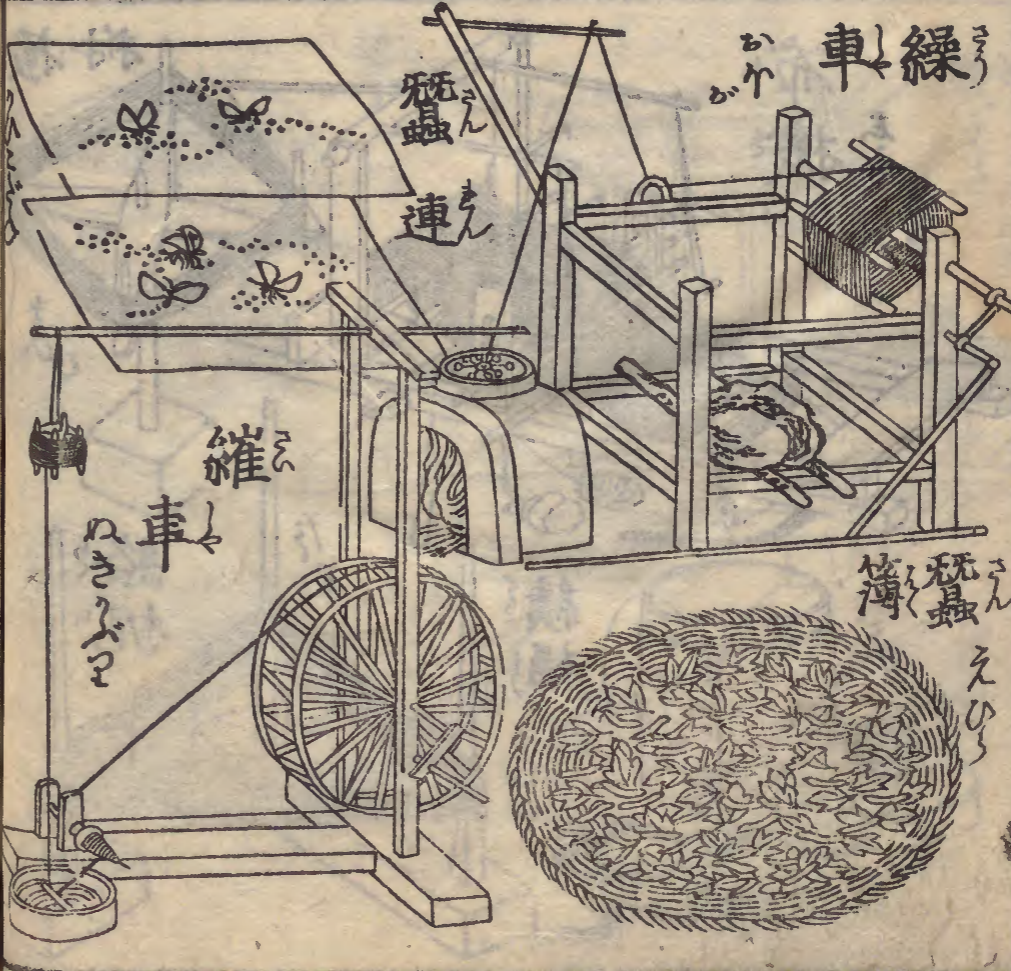
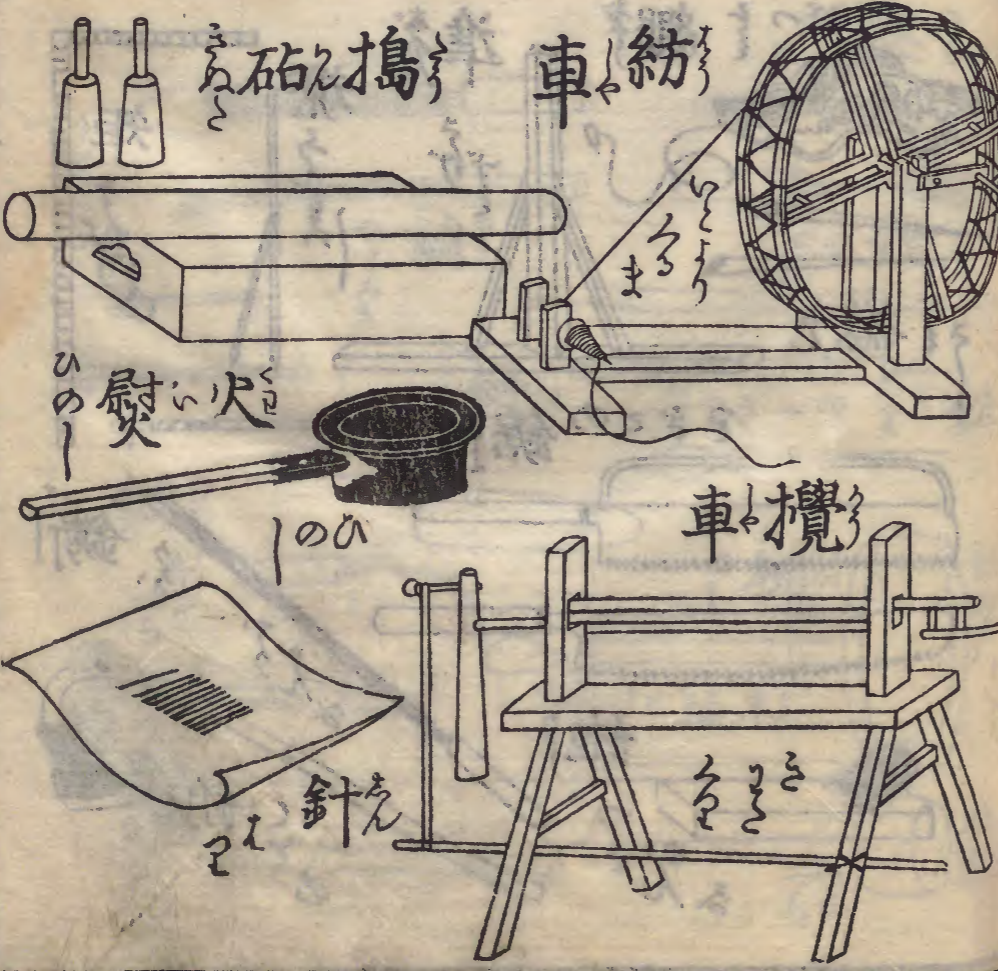
〇 銀剪ぎんせんはさきとあり俗ぞうに
 〇 榨くわは醪さかと同一酒さけ又また油あぶら
 〇 石いし鑿う石いしとききものあり
 〇 碓うすの空うつら穢けがれ杵きね白しろと制せいと後ご
 〇 機はたはくろり織オリあり経けい
 〇 篋けいの柄えいと柄えいと又また桶ぶく
 〇 績つと纏まとひ共ともとありて
 〇 紡イト錘つちはけいあり又また槌つち
 〇 撥はた拵しなはくろり車くるま
 〇 篋けいの柄えいと柄えいと又また桶ぶく
 〇 績つと纏まとひ共ともとありて
 〇 紡イト錘つちはけいあり又また槌つち
 〇 撥はた拵しなはくろり車くるま



須賀川...
 須賀川...
 須賀川...

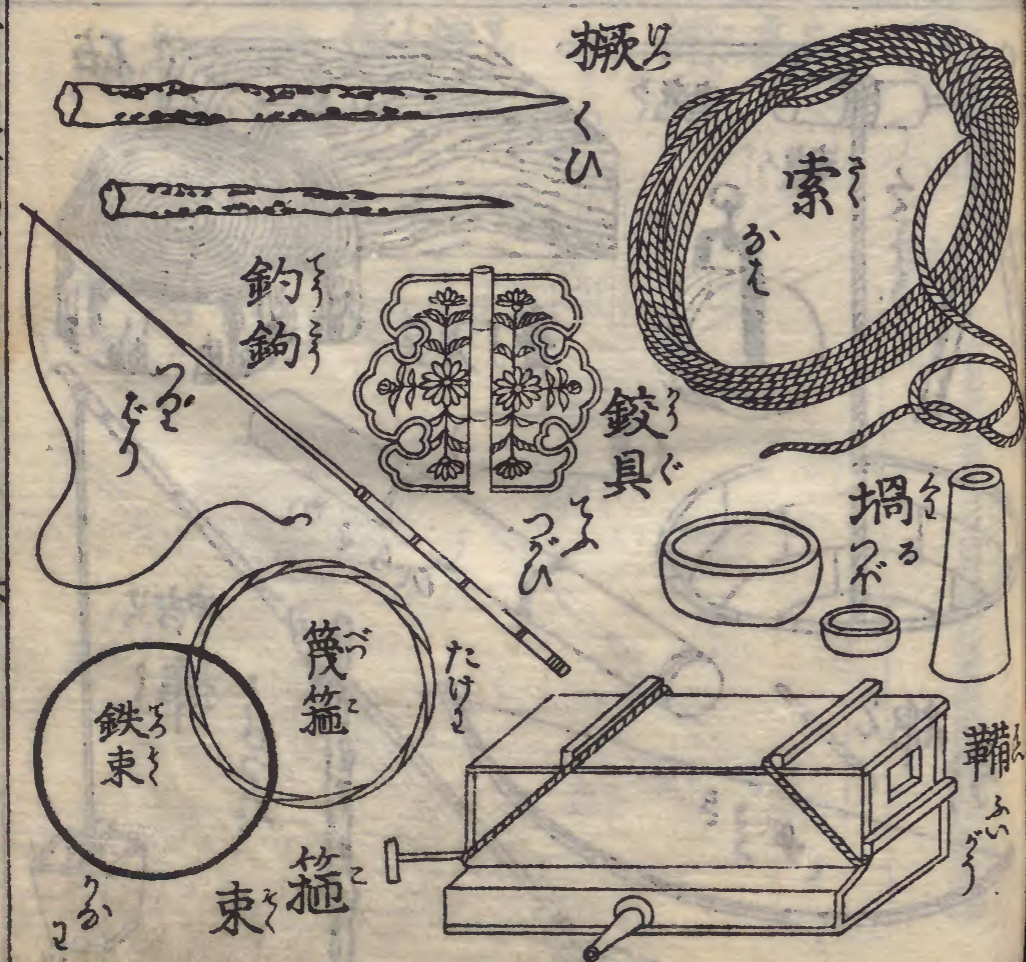
須賀川...
 須賀川...
 須賀川...

ともいふ
 ○絡柅糸とてる蓋を
 絡塔とも書なり
 ○布機布とてる蓋を
 機ふとも書なり
 ○績桶とてかけありのま
 つておけといふ茶釜
 ちやまといふたひあり
 ○繰車糸とて糸とて
 具あり繰車同又繰車と
 も書なり
 ○登連の蚕種紙なり
 こゝといふ
 ○登薄の蚕とてる具
 ○繰車糸の竹の子小つら
 具あり緯車同
 ○紡車糸とてる蓋を
 綿筒と俗小わめといふ
 ○攪車木綿とてる
 核と攪とて車なり
 ○搗砧のきね巻とてる
 火尉火とてる蓋を
 を尉あり鉛鉄鉛鈷か
 らび小同
 ○針物のねと活と活す
 と同く通し用の醫者鍼
 としつ病と活とてる人
 をいふとてる蓋といふ視
 儀聴儀のさし



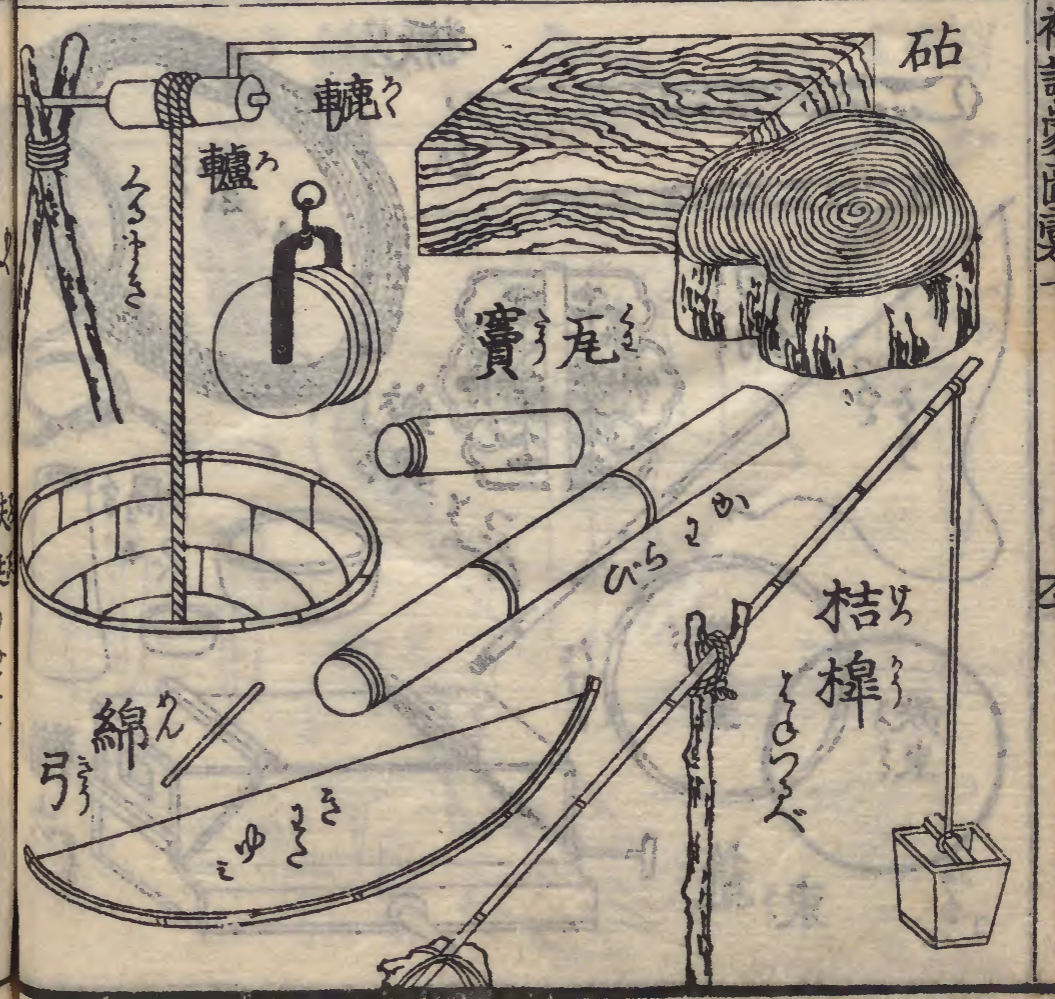
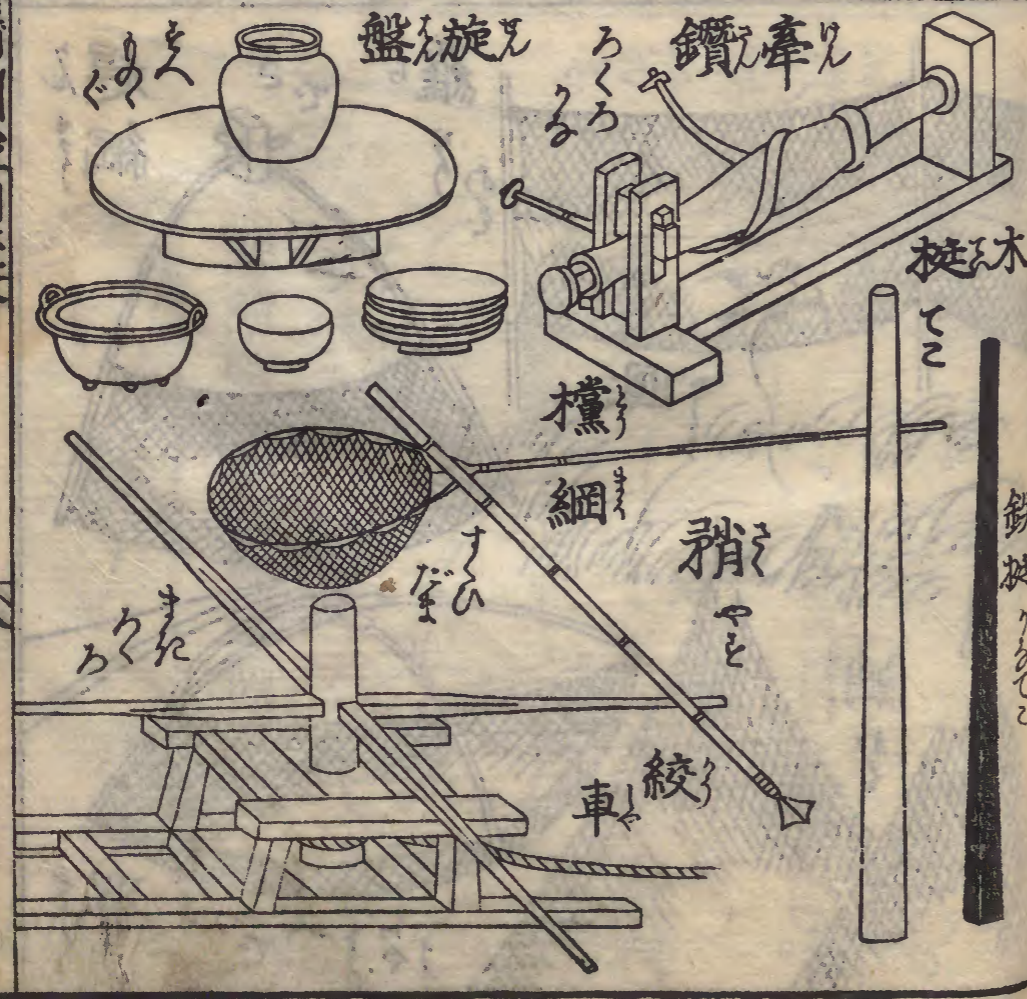
頂書曾補別文圖集下

○鐵の壁とゆる具あり釘
 朽朽同トてあり
 ○鉋の鉄植あり
 ○鉄の火鉋火鉋同
 ○鑽の鉄砧あり鉄鋸鉄鉋
 同クありさなり
 ○削刀の小刀あり
 ○裁刀岡のじりありさなり
 たかあり
 ○鑷の刀あり斧の刃あり
 うさあり
 ○斧の神農斧ありつらあり
 本狐さる具あり柯の柄
 ○釘のさなり物さなり
 多あり
 ○浮漚釘ののりあり
 俗ののりあり
 砲頭丁の俗あり
 ○塙のつらあり甘塙とも云
 壙同型模塑の並あり
 ○鞆の蒙籠とも書一踏
 鞆のたけ
 ○概の采段あり杓あり栗
 椿ありひ同くわあり
 ○鉋具の蝶つぎの鑊鑊同
 ○釣鉤のつらあり釣
 竿ありさなり釣線あり
 餌ありたけあり



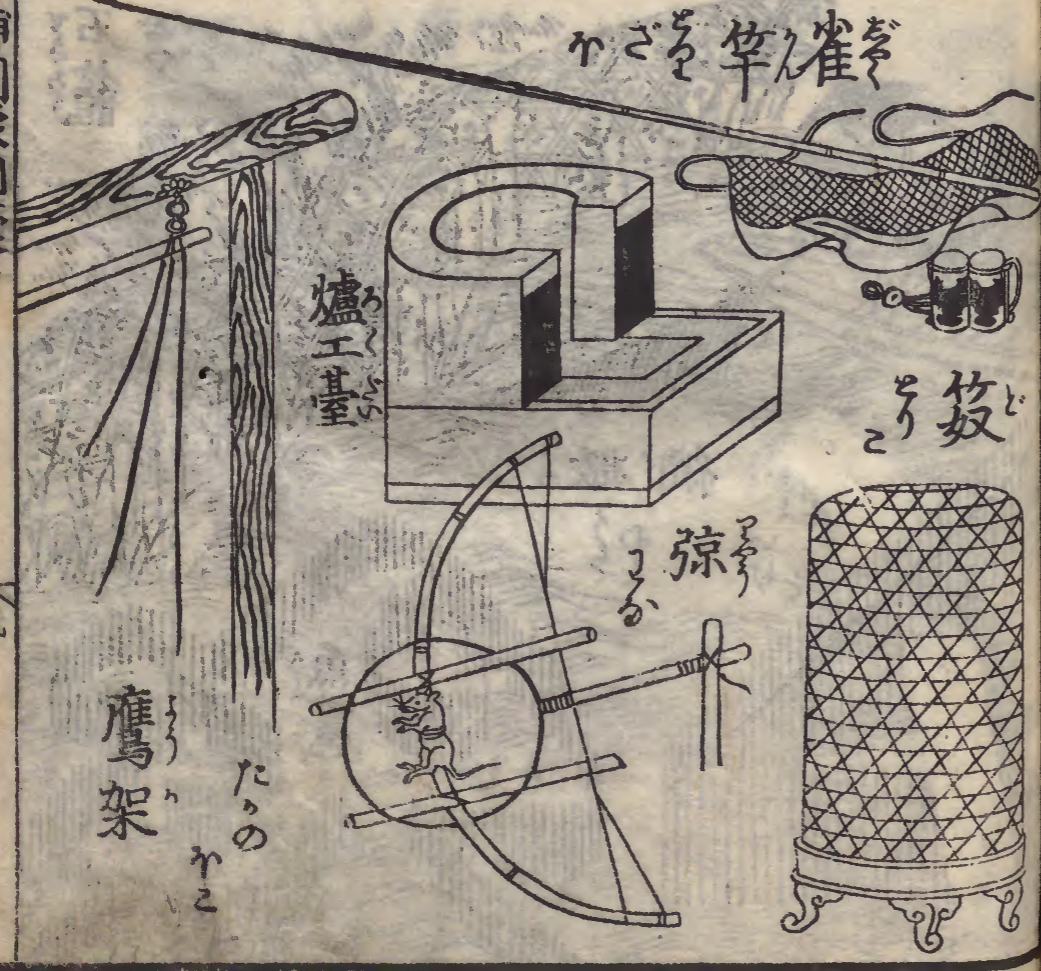
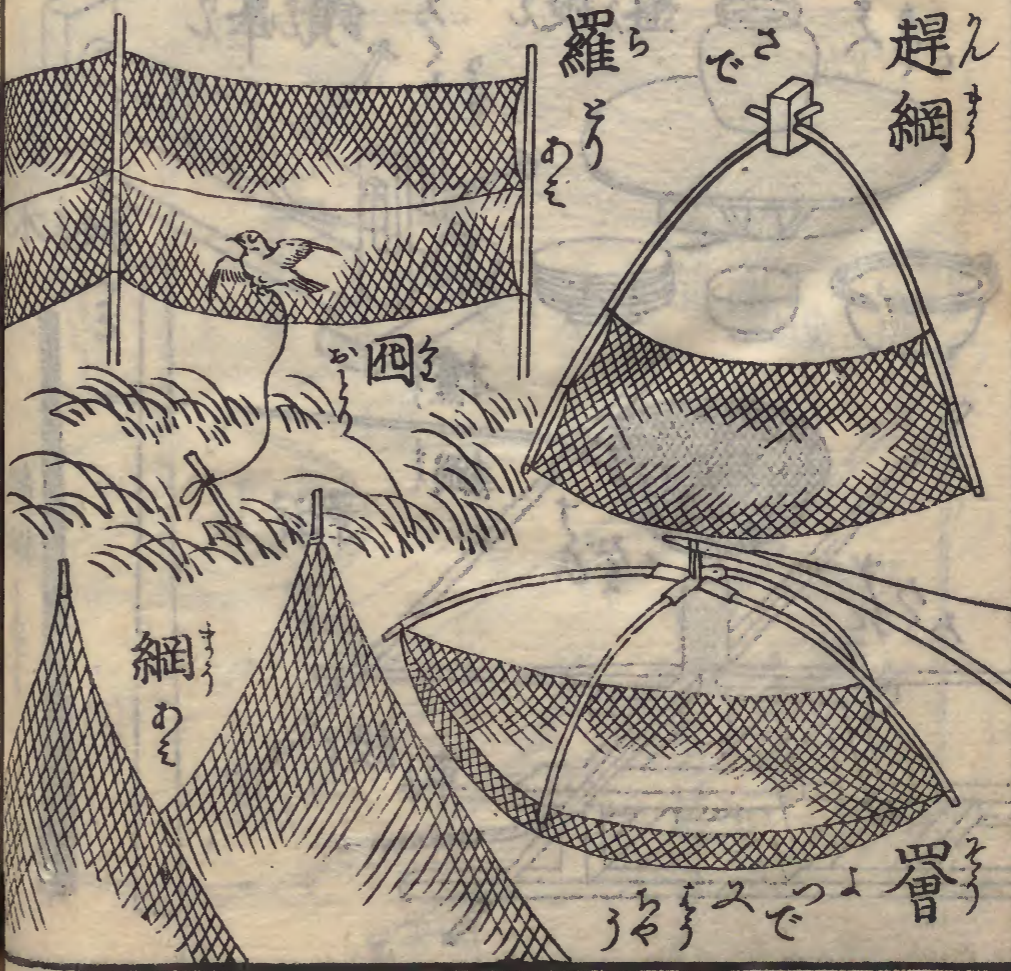
貞世書曾甫川長文圖畫

○鉄束のつかひ多し鉄桶同
 ○笹束の桶の輪多し竹よ
 てつろ竹筒笹ともいふ
 ○砧おてなり拵磁同た
 に夜とつ具多しきやく
 としつ
 ○拵棒いもつと多し擦
 棒同
 ○轆轤水とつとつとふか
 る具多しとつとつとつと
 ぎくれ轆轤とつとつとつ
 ○瓦竇いもつとつとつと
 かり陰溝いもつとつとつ
 と書かると
 ○綿弓の本もとつとつと
 ○牽鑽いもつとつとつと
 かりいもつとつとつと
 かりいもつとつとつと
 ○旅盤の茶碗天目とつと
 とつとつとつとつとつ
 かりいもつとつとつと
 ○本挺いてとつとつとつ
 てとつとつとつとつ
 ○攪細の俗ふとつとつと
 いもつとつとつとつと
 とつとつとつとつとつ
 もいふ
 ○硝の鯨鯨かたつとつ物
 かりいもつとつとつと
 とつとつとつとつとつ
 一名魚又とつと
 ○絞車いもつとつとつと
 かりいもつとつとつと



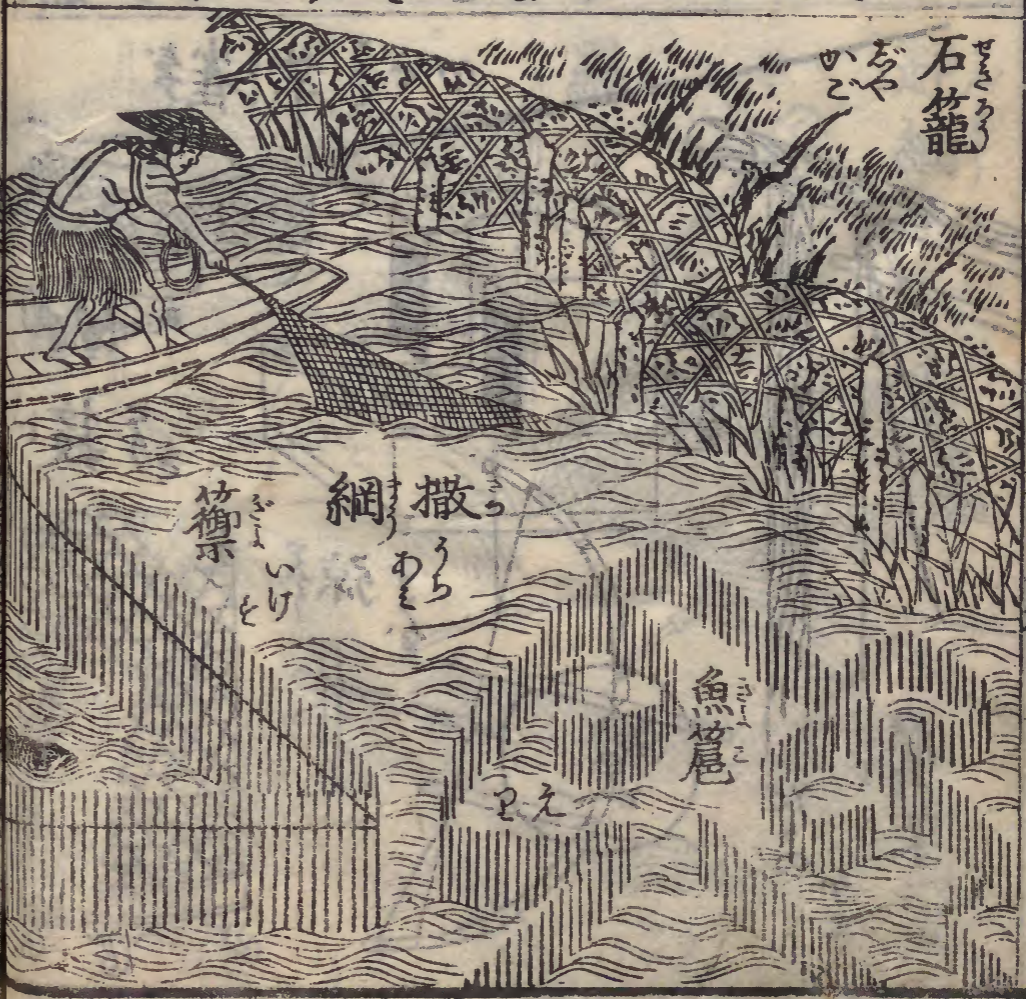
家藏堂やぶのくろく
 うまや
 ○趕網かんまきとも小魚と
 とも具あり俗ふたのこま
 ○罾すけうとともわさう
 方張とりふいそひのわ
 教品あり此圖ハ四でとも
 わさう
 ○網あみのわさうあま厄儀あま氏の
 つらうともあまあま罾すけ同
 俗ふさうともあまあま罾すけ
 うまや
 ○羅らのわさうあま罾すけ氏
 うまや羅らとも鳥罾あま
 絹糸あま又麻糸あまはくはく也

○罾あみのわさうあま罾すけ氏
 いで外のわさうあま罾すけひ本
 ととも罾あみと罾あみとも
 關せき煉れん鳥とり同
 ○雀すずめ竿かんの竊しやく竿かん同
 しさかんあみ罾あみ罾あみとも
 かん
 ○笈あしのわさうあま罾すけ
 九く笈あしをどわ
 ○爐ろ工く臺たいの金かねのあみ夫
 とも臺たいあり俗ふとも
 鷹たか架かの鷹たかのあみ
 本あり
 ○涼すずか罾あみともふあみひて
 狐きつねのあみともふあみひて



頭書増補神話家圖景十

〇 翻車ハ龍背車ナリ
 田でりのとき田地ふみ
 〇 筒車ハくさまを
 〇 魚籠ハ海中ゆく魚と
 〇 撒網ハ魚とともわら
 〇 水箕ハけいひゆう水と
 〇 紫山子ハかきり
 〇 竹籠ハ池のうら又川をよ
 〇 撒網ハ魚とともわら
 〇 水箕ハけいひゆう水と
 〇 紫山子ハかきり

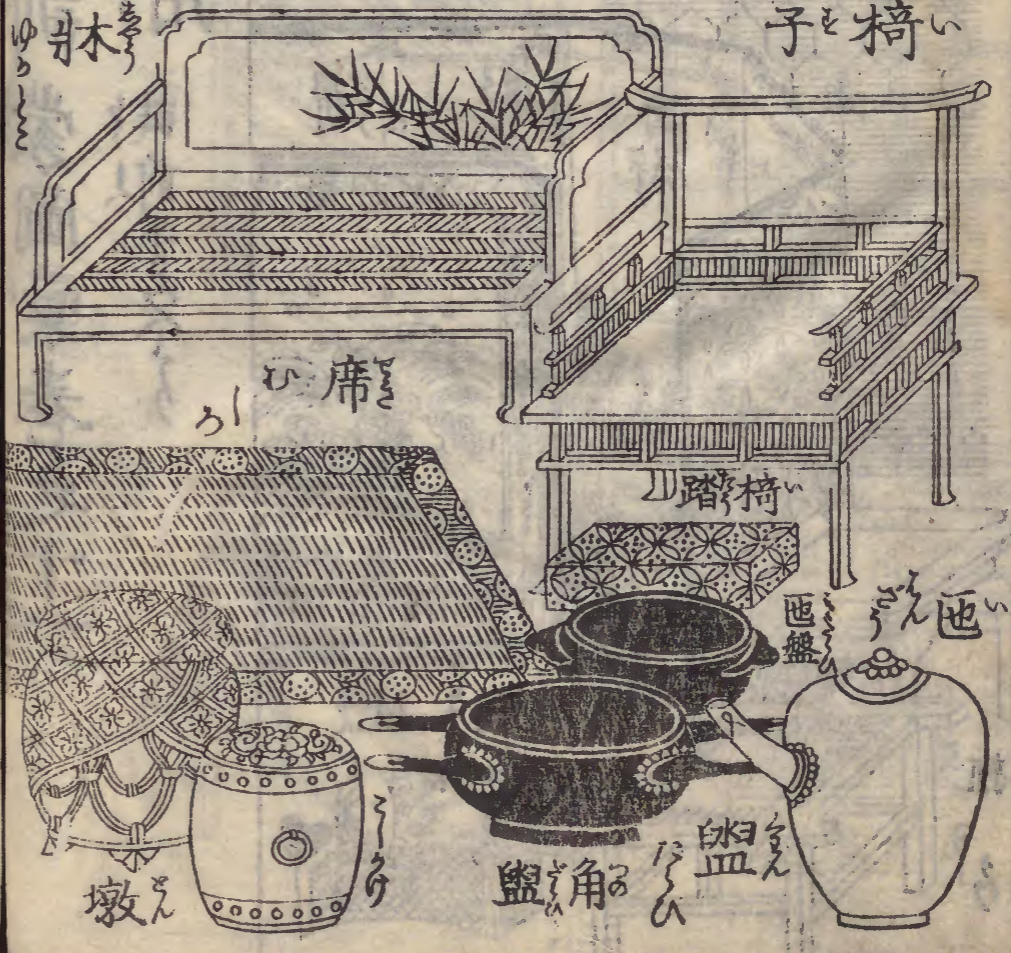
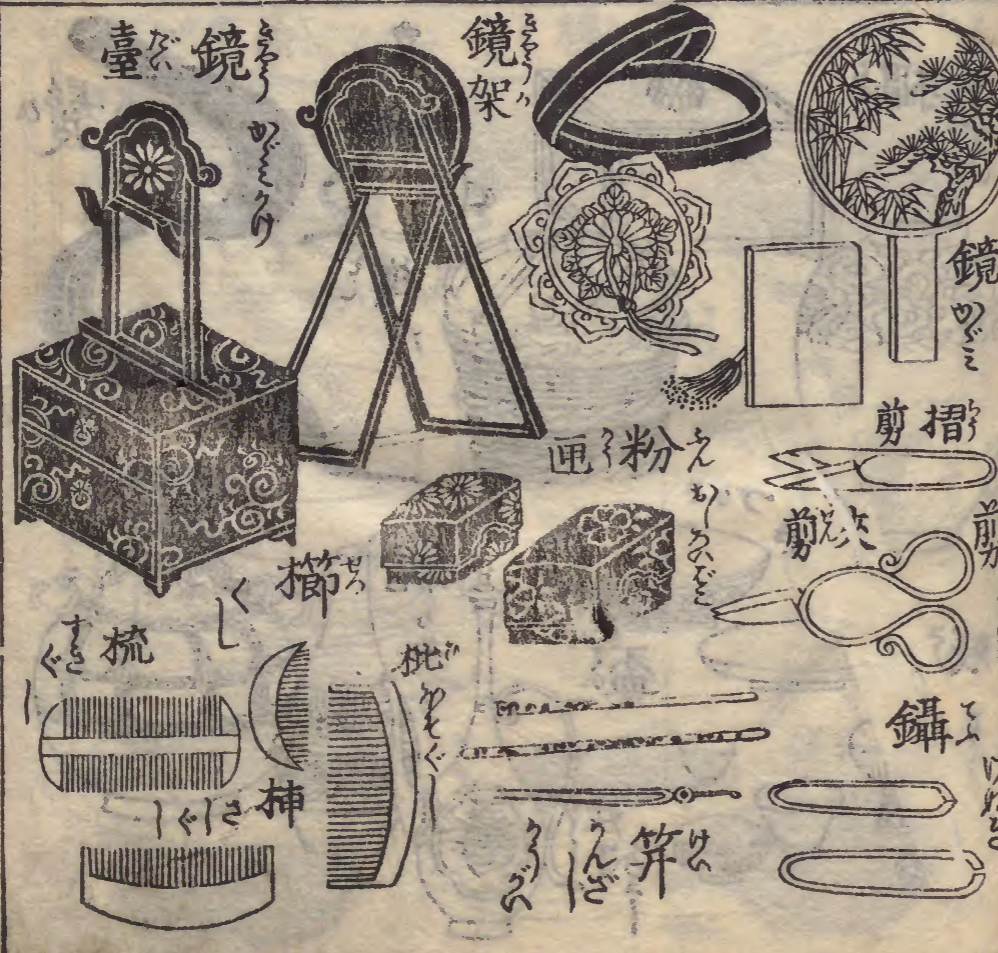


原田山子川水圖

原田山子川水圖

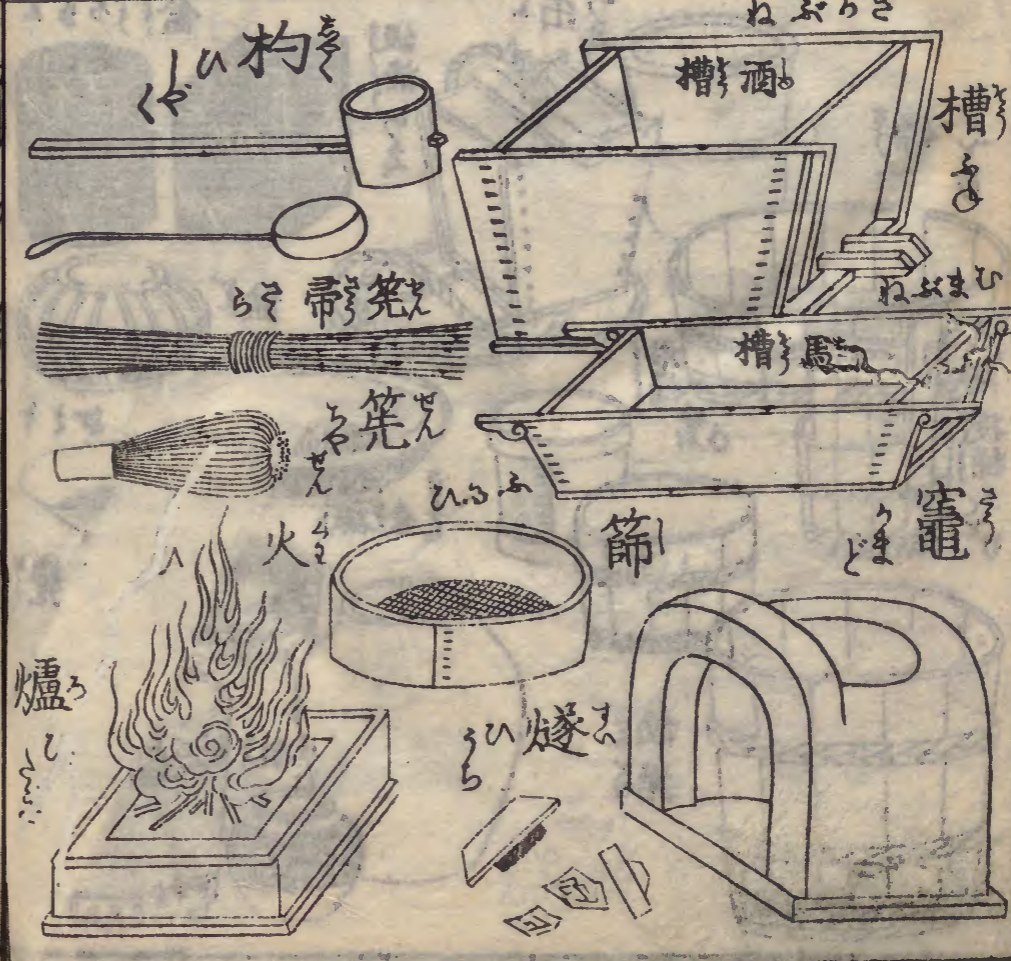
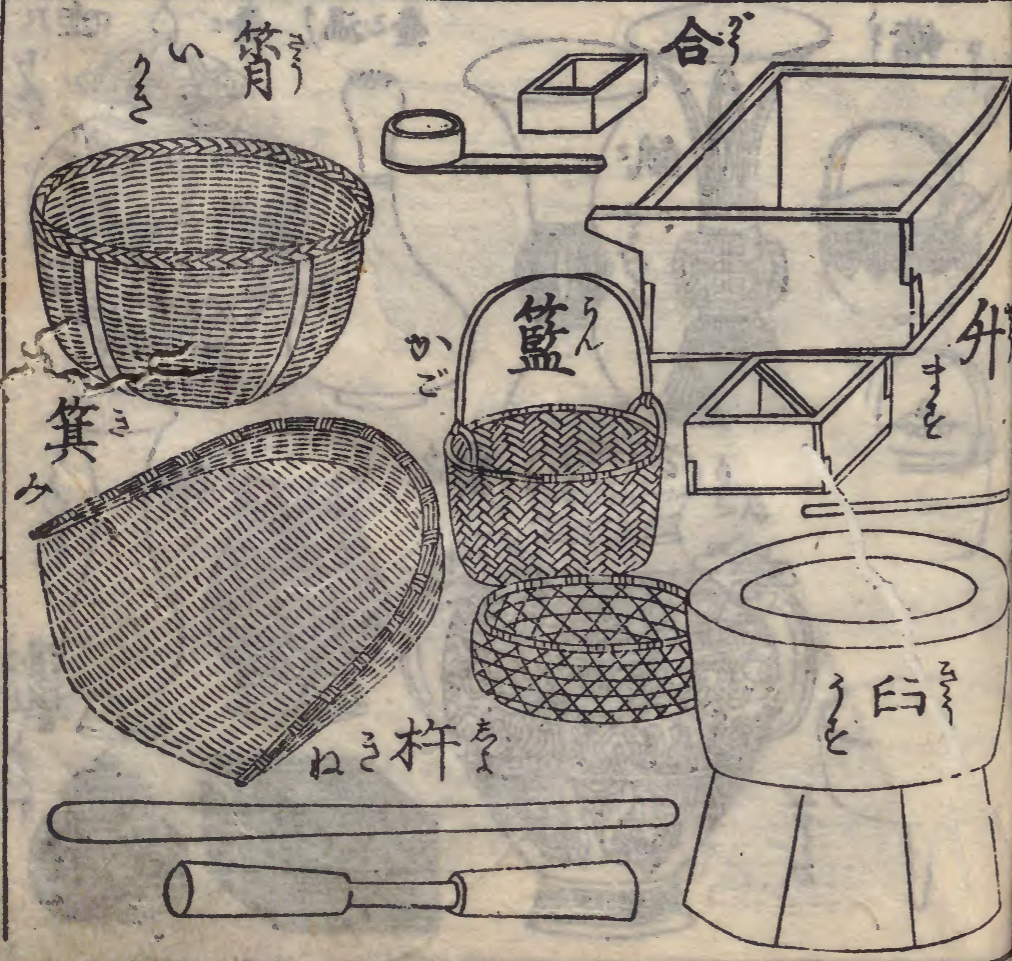
〇鏡臺の鏡架もこのへ又
 粧臺もこのへ今按る
 〇粉匣かゝるのへ
 〇前かゝるのへ前刀あり
 前か子削カヤび同今
 按るへ夾前摺前を
 〇鑷のけぬきあり鼻鏡の
 へかけぬきあり
 〇笄の女の髪ふさぐ具
 かんと掃同根子あり
 〇櫛のくし總名あり梳と

〇床の揚多ゆつとも
 〇座敷の八尺と床とつへ
 〇匣のへんざうあり柄の
 〇盥のへんざうあり盥盤
 盥盆同又類につく盥盤
 〇みたるひ角盤つへ
 〇敷のへんざうあり坐敷も
 〇草墩とつへあり



頂書曾補則家園景上

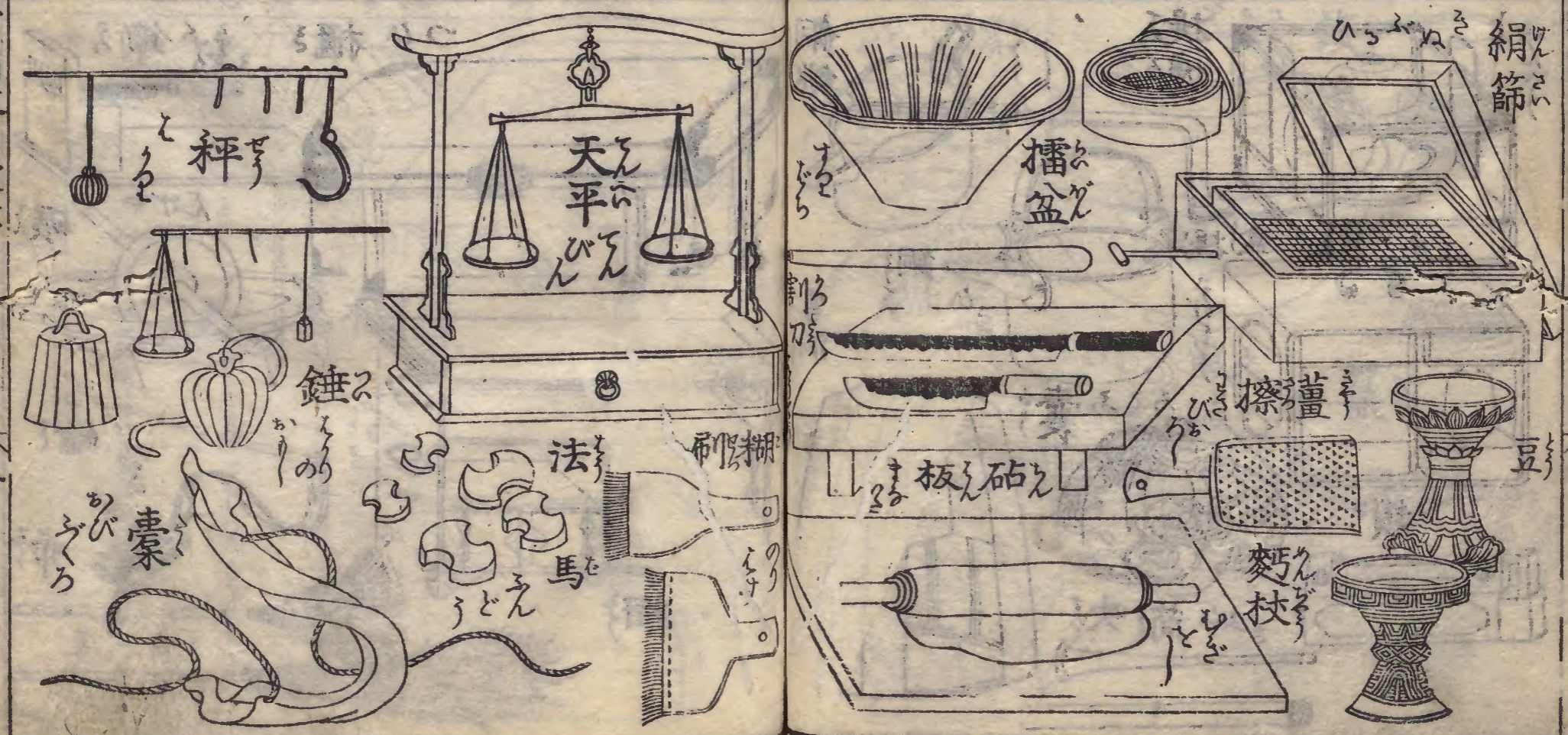
○盤ばんはすべて物の臺たいなり
 圓まるくも瓜うり盤ばんといふも
 とも方かたか瓜うりも通とおじ
 盤ばんといふ事もあり
 ○臺盤たいばんは今の三方さんぱうあり
 ○托たくは茶碗ちawan天目てんめの臺たい也托たく子こ
 托盤たくばん並なら同どう又また臺たいはつる
 ○鉢はちは佛氏ぶつしの盃cupなり鉄てつ
 鉢はちわり銅鉢どうはちわり木鉢もくはちは
 佛ぶつのりらめ六鉄鉢ろくてつはちなり
 ○臺盤たいばんはさうきの臺たいなり
 ○盒はこは合子がしなり今の合がしは
 方かたなり圓まると器きなり今の方かたに
 もさかん
 ○盆ぼんはすなれうへりの名
 ○甕かめは酒さけを貯たくわへる器きなり
 其その小こ大だい多たと甕かめといふも
 甕かめといふ酒さけを貯たくわへる器きなり
 ○桶かづはけり提ひ桶かづはさ
 浴桶よくはゆへり打う同どう
 ○酒桶さけかづは五石ごせき八石はっせきなり
 口くちはさしてさし
 ○缶かはつる方かたを貯たくわへる器きなり
 水みづとさしもの多たく縛しばつるが
 縋す汲く索さくはさし同どう
 ○汲桶くみかづは本ほんふて作つくらるる器きなり
 ○酒槽さけざうはさうの器きなりこの槽ざうは
 酒さけを貯たくわへる器きなり
 ○馬槽うまざうはひきり糸いとなり馬うまの
 四足よあしとさうの器きなり槽ざうは
 ひきりなり



頂書ていしよ增ぞう補ほ川かわ袋ふくろ圖ず景けい下げ

同書どうしよ增ぞう補ほ川かわ袋ふくろ圖ず景けい下げ

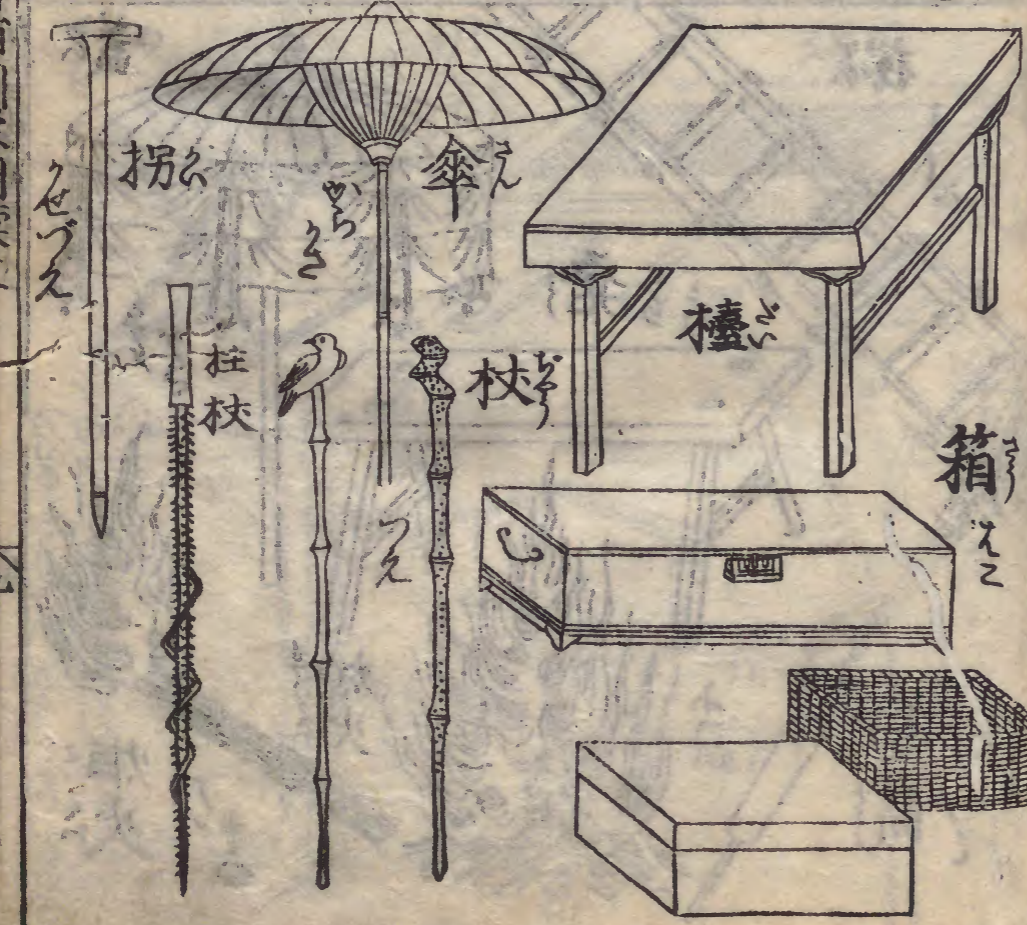
銅鑪ははるばる銅鑪といふ
 ○薬鑪といふ
 ○耳壺といふ人の酒といふ
 つがかり今の花瓶といふ
 ○鏡といふはかりといふ
 方と茶と者といふ
 ○笠の蓋と同一祭器也
 食物は入て先祖といふ
 まつりといふ
 ○標の食物といふおかし
 今といふといふ
 ○風爐の茶炉茶炉といふ
 以同又金櫓といふ書い塗
 師のふらといふ陰室
 ○水罐といふといふ
 ○銅鑪といふといふ
 酒といふといふ
 ○銅提いといふ提子也
 酒といふといふ
 ○提爐といふ茶弁當
 あり又携爐といふ
 ○提盒といふ提重あり
 又行厨といふ
 ○雪洞といふ育とも云茶
 炉といふといふ
 紙といふといふ
 ○囊の袋体といふ
 ○吹筒の火といふ
 管といふといふ
 ○鎖の音未詳といふ



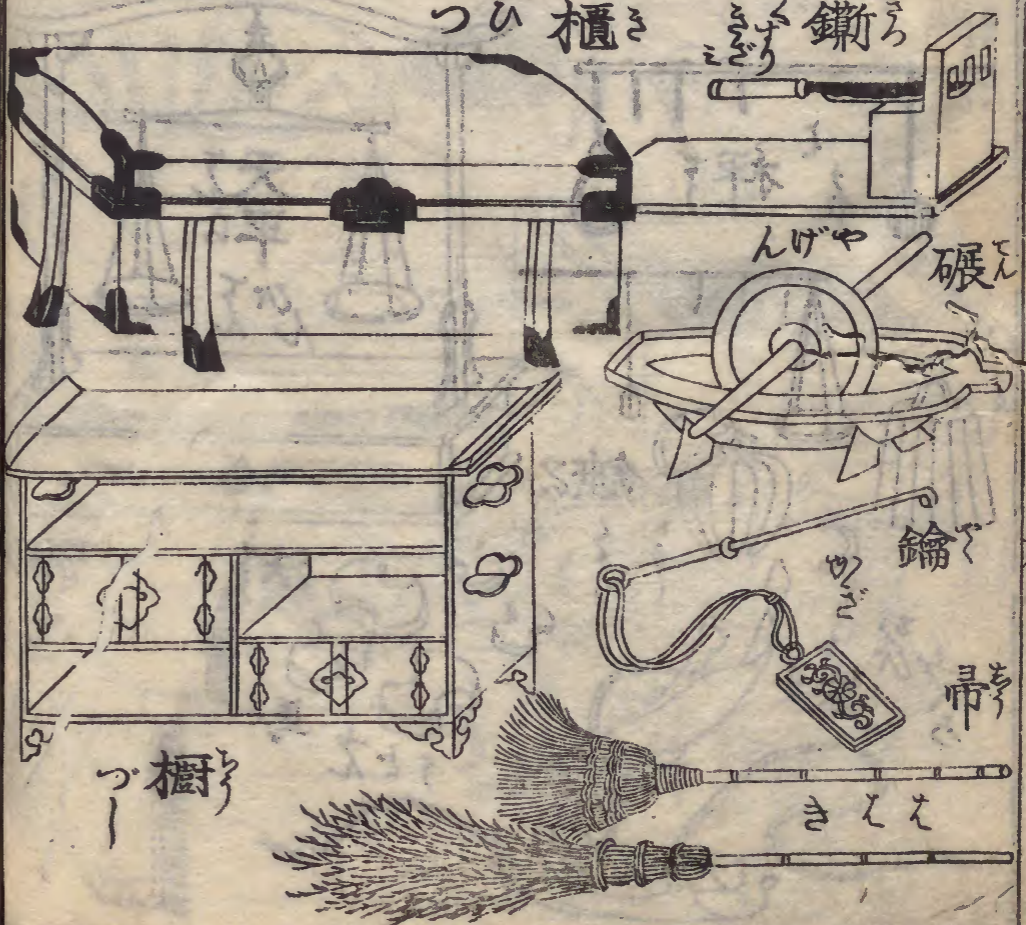
貝書曾補川支國景上

豆書并和詩家圖景上

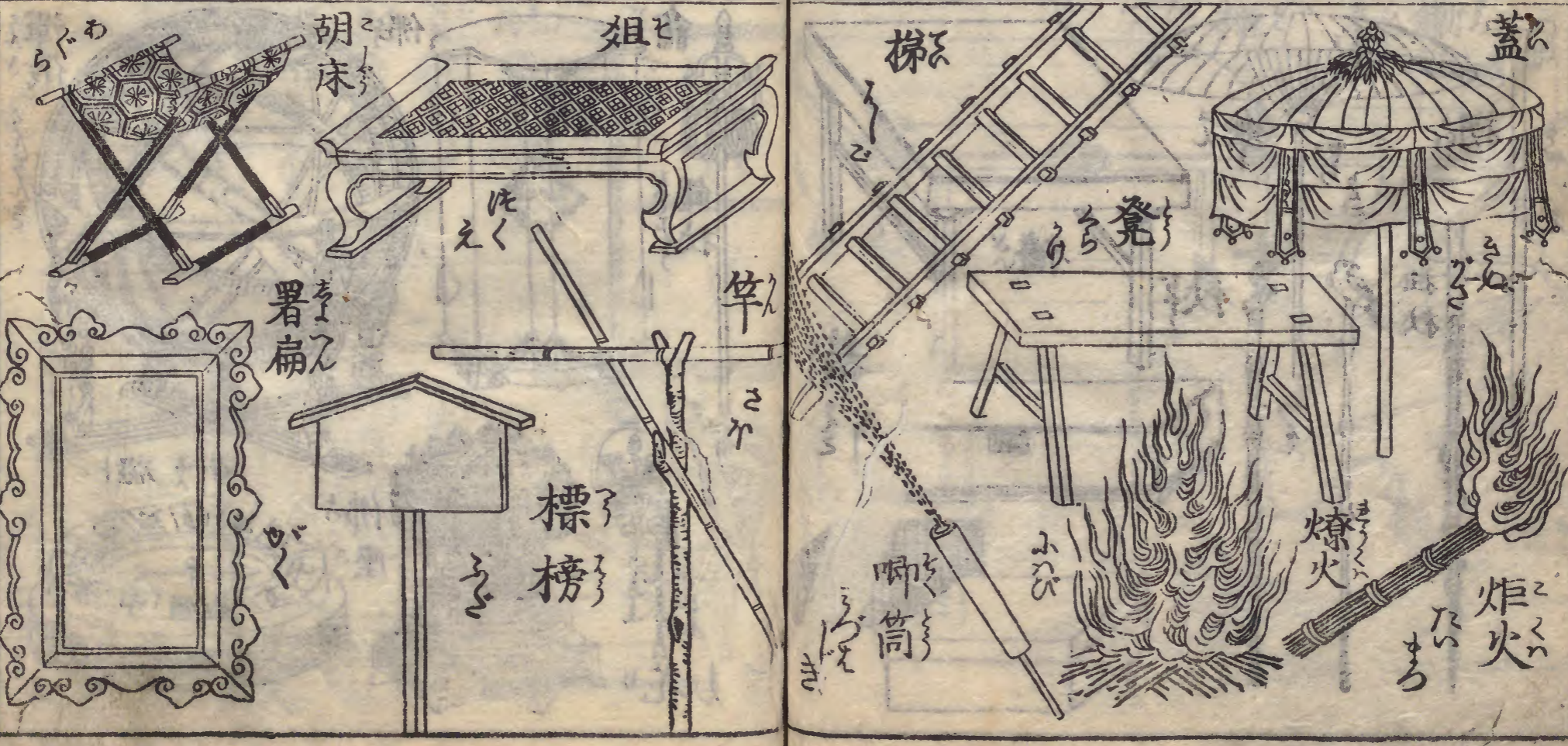
○ 管とつてはとて鎖須と云
 ○ 絹篩のきぬのさいり
 ○ 今接とてふ薬とてふを
 ○ 羅合とてふ麩粉とてふを
 ○ 羅とてふ
 ○ 播金とてふをちりちり
 ○ 雷のてしとて播金とて
 ○ 播木播槌とてふす
 ○ 豆の祭に肉とのとてふの
 ○ かり佛氏ふの菓子とのと
 ○ 薑擦とてふをちりちり
 ○ 砧板の今のみちかとのと
 ○ 又柵とてふ書べし肉机
 ○ 魚盤とてふを同
 ○ 割刀の今のみちかとのと
 ○ 麩杖の今のみちかとのと
 ○ 一ふ軒麩杖とてふ
 ○ 天平の今のみちかとのと
 ○ 平の秤の字れ略とてふ
 ○ につりては秤とてふ
 ○ 法馬の今のみちかとのと
 ○ 法子鉤馬とてふ
 ○ 秤の盤等とてふを
 ○ 盤とてふをちりちり
 ○ 又瓜權とてふをちりちり
 ○ 松秤とてふをちりちり
 ○ 錘とてふをちりちり
 ○ 權とてふを同衡とてふの
 ○ さへ梁同
 ○ 糊刷の今のみちかとのと
 ○ 臺の底とてふをちりちり



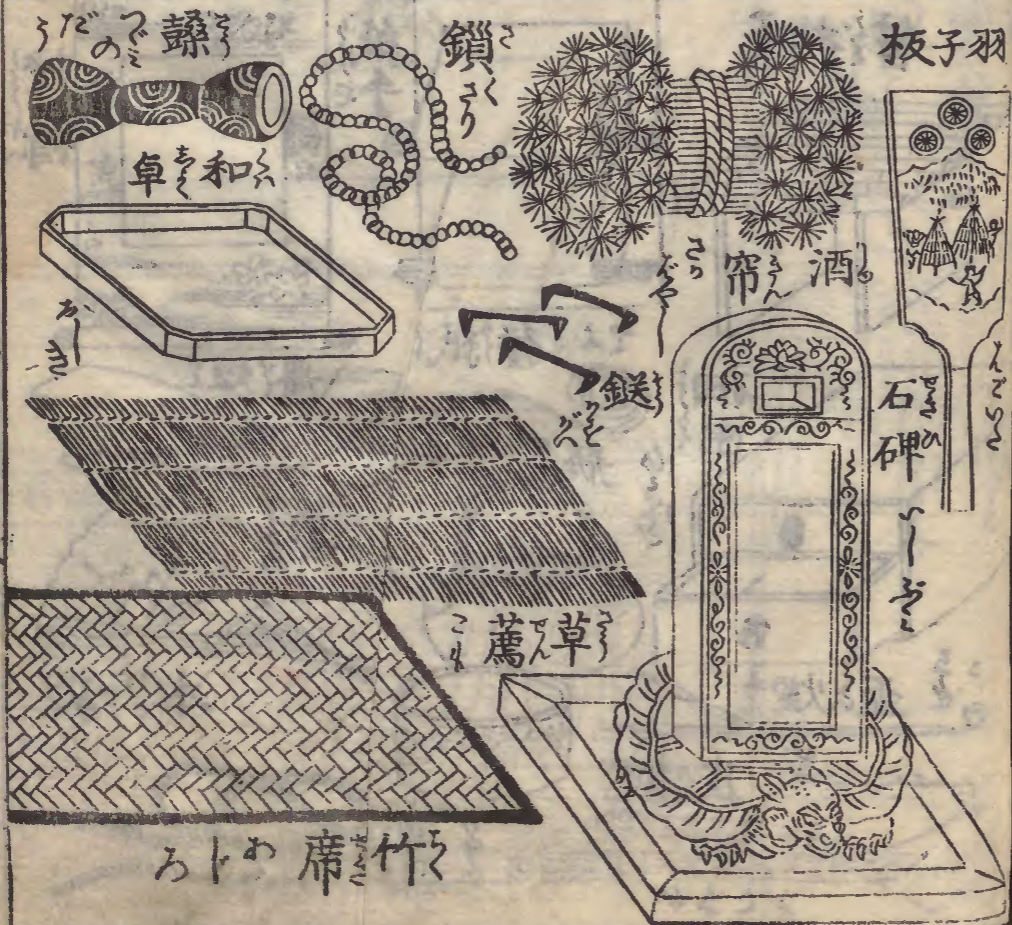
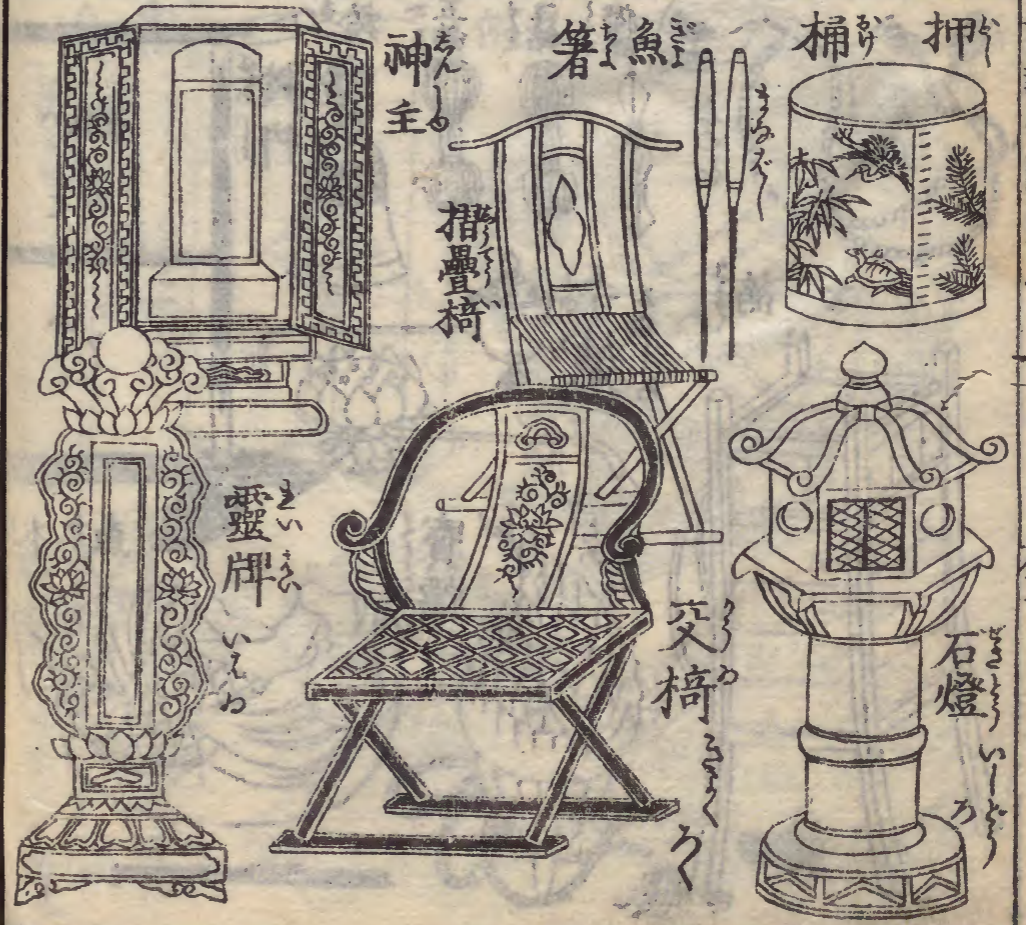
○ 雷のてしとて播金とて
 ○ 播木播槌とてふす
 ○ 豆の祭に肉とのとてふの
 ○ かり佛氏ふの菓子とのと
 ○ 薑擦とてふをちりちり
 ○ 砧板の今のみちかとのと
 ○ 又柵とてふ書べし肉机
 ○ 魚盤とてふを同
 ○ 割刀の今のみちかとのと
 ○ 麩杖の今のみちかとのと
 ○ 一ふ軒麩杖とてふ
 ○ 天平の今のみちかとのと
 ○ 平の秤の字れ略とてふ
 ○ につりては秤とてふ
 ○ 法馬の今のみちかとのと
 ○ 法子鉤馬とてふ
 ○ 秤の盤等とてふを
 ○ 盤とてふをちりちり
 ○ 又瓜權とてふをちりちり
 ○ 松秤とてふをちりちり
 ○ 錘とてふをちりちり
 ○ 權とてふを同衡とてふの
 ○ さへ梁同
 ○ 糊刷の今のみちかとのと
 ○ 臺の底とてふをちりちり



俗ふうらとらふ
 ○鎌の葉カサのりふ草と
 るる具あり今いらとらふま
 みふりら
 ○碾り農具あり今人新
 と粉ふらる具とらつて新
 碾とも茶研ともいふ
 ○櫃ひつかり書物衣服と
 入るもの多唐櫃半櫃長
 櫃あり
 ○櫛の厨子あり書厨かま
 又夜厨といふあり
 ○鑰の鍵鑑やひ小通下
 りらむきあり
 ○帚の帚同條帚いら
 るる掃帚いたけら掃
 帚のりた本りき掃帚の
 とらふあり
 ○檯の几案のよとひかた
 食物の檯と飯檯といふ
 ○箱の篋匣より小同ト管
 とも書かり屨のひと抽匣
 とも書かり屨のひと抽匣
 ○傘のひらきあり雨傘の
 わまの涼傘のひらき
 ○杖 鳩杖の鳩の物いひ
 鳥のりらと老人のお小
 ひせぬらと杖のりら
 に杖のりら杖のりらと
 鳩杖といふあり
 ○蓋のりらに車よ
 ららあり



○佛座蓮座より獅子座須弥座荷葉座岩座唐座等あり
 ○華鬘曼西城の女首のをりたる璽珞あり頸のかけりあり
 ○鍔杖の杖は隙葉羅といふあり
 ○掩の衣服といふものあり又夜折といふ架ともいふ
 ○木魚の本は鯨魚のこらとつらりその声のたふふとまてて鐘と鐘といふ師家みしりあり
 ○鈴の口金言かると真言修持の具あり
 ○杵の獨鉦三鉦五鉦の三色ありとも小真言家の具あり
 ○手爐へえぐる和尚上人是と持して佛茶といふ
 ○數珠の念珠なり諸宗ありあり
 ○寶牒へりりるのくち海中の校尾螺とやあり法螺とも梵貝ともいふ修験の家への軍陣ふく
 ○笛のいりり山伏のありありのあり笈ともいふ
 ○押桶の産のとき胎衣を入る桶なりまがねふくを箱とまがね
 ○石燈の佛神のふりあり



頁背書目補列及同書上

びくちつさるしりろありの竹席せき今いまわたりあり筆筆同同篋篋席席も同同
 たくじしあ○燈とう襖あはせけ物けものふらりかじ表具あはせといふ道背みちのせ燈とう補ほ繪えも書かか
 るりやとたて輪りん補ほといふ紙し手ての物ものといふ依よのありありとんといふわやま
 紙し縷いとといふと○短冊たんさふの短たん箱はこも探たん策さくも書かへ一ひと色いろ紙しの要もとわさのり
 ゆかり一ひと鹿か同同とく○啄たく木きの表具あはせの紐いとかり組くみ糸いとのりち鳥とりの木きと啄たくとわと
 丁てい半はんのらちわり○抽ひ画え箱はこのしとさかりあり又また抽ひ水みづも書かかり○土つち瓶びんの陶たう
 てはかり茶ちやと煮に器きあり○滴た器きのけとありつと書かへ一ひと水みづがけりかり
 ○煙えん盃はいもさとのひきさるあり但た和わ字じカス一ひと○皺しわ皮かわのありとあり
 かしらさりのとさるあり葦あし皮かわ同同○寶たから蓋かきの天てん蓋かきかり佛ぶつのうふありありのり
 ○指さしひらきあり死し人ひとといふとあり桐きり同同指さしといふ外ほかと擲なといふ法はふさあり
 あり○輪りん喪そう車くるまあり今いま大だい輦ふん竹ちやく格かくといふ僧そう家けといふと公こう龍りゆうといふ

頭書増補訓蒙圖彙卷之十二

畜獸

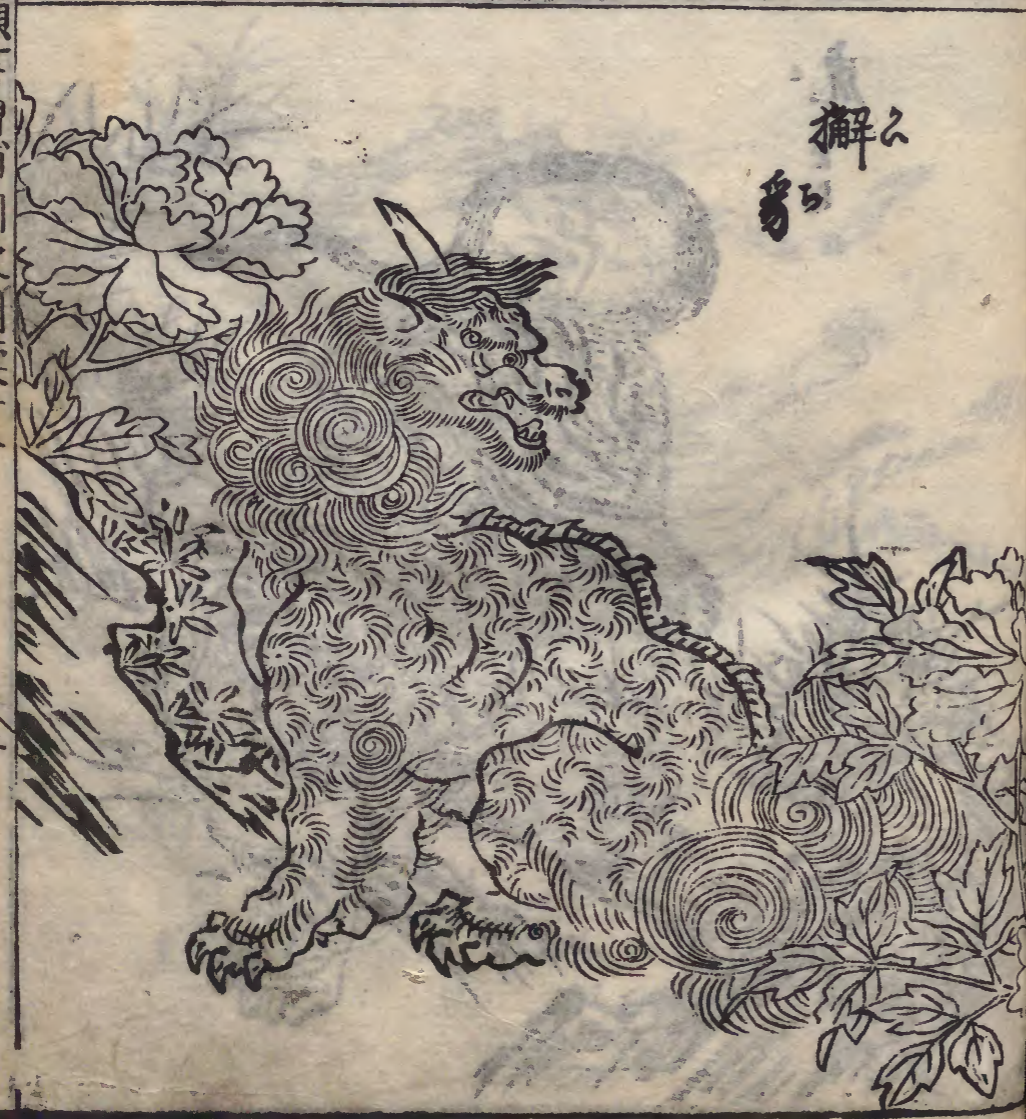
此部ふい山野やまの人ひと同同といふ
 とありくのけと物とありと

の麒麟きりん
 仁獸にぶつあり
 賣身うりみ牛うし尾おし
 一角いっかくあり牡おしと
 麟りんといふ北きたと
 麟りんといふ生せい虫ちゅう
 とふすど
 生草せいそうといふ
 野人やじんのせふ
 野獸やぶつ



頭書増補訓蒙圖彙卷之十二

○獅子シ百獸ヒャクベの長チカキリ
 一匹ヒツ小コ五百里イハヤヒと走ハシル
 虎コ豹ヒョウ狐キツネ等トナリ食クハハ故コトニ
 虎コ豹ヒョウ等トナリ食クハハ故コトニ
 獅子シと云イハフ
 天竺テンシクの猛獸マウベツ
 中ナカ通ツウ力リキ也ナリ
 のありと云イハフ
 一名ヒツ後ゴ狔シと
 異國イコクの獸ベツ
 獅子シに似ニク
 一角イツカクのシ一名ヒツ
 神羊シヤウと云イハフ
 能曲ニョク直チキと
 獄ゴクと海カイ陶トウ
 その罪ツミと云イハフ
 赤アカのシ解ゲ
 罪ツミのシ解ゲ
 と食クハ罪ツミか
 へん



百言百事三才人百言百事

○虎のくち
 猫のおく
 大さ牛乃
 如く色黄ふ
 毛て赤足ふ
 く一身の力
 赤足よりの夜
 小一目の光と
 殺ら一目の光
 をんる赤雷の
 ごとくく風
 とらをふ
 上つて虎の
 吼まの百獣恐
 とくひく人



虎
 とら

○驪虞の白虎
 虎のくち
 尾身より
 ながく仁獣
 かた
 ○豹のくち
 虎にくち
 ちの顔赤く
 白く毛色
 赤黄く白
 きりり
 赤黄かり故
 ながく毛赤
 とくひく



驪
 虞

豹
 け

百獣の王

百獣の王

〇犀の毛豕の
 おく蹄の
 三甲の
 頭馬のぞく
 三角の鼻
 上額上頭上
 小わを
 〇熊の毛を黒く
 形豕に似たり胸
 に白脂のり俗小
 熊白とつ洞穴
 すしと穴熊といふ
 本といひて本熊
 の熊藩くはの
 だかてり熊膽くま

〇狼の狗に似たり
 頬をくく頬白く
 赤黒く後ひら
 口をくく大さ
 かくく猪獸
 といひて食入
 ゆく後とくを
 〇豺の狼の如
 かのくをくあやそ
 頬白く尾をく
 狼といひて
 小くかほく
 猪獸と食入
 悪獸あり



頂書昔昔南川家園集卷十二

五

○鹿の馬のごとくはくそ小あり
 頭をく脚細く
 角は牡の角を
 夏至よかつ牝の
 角か六月よ
 ちくみかひ
 好で身をく
 ふ秋のそよ
 してなを
 虚勞とわらひ
 腰とわらひ一切
 の病は益あり
 ○麋の鹿の
 子か



鹿
 か
 の
 こ

麋
 の
 こ

○麋の鹿の山に
 春暮は夜
 鹿はく小
 角か黄黒色
 雄の牙あり
 ○麋の鹿めて
 青黒あり大さ小
 牛の目に下に
 二の穴あり夜の目
 とし
 ○鹿の羊に似
 青色あり七文あり
 角は細くてあり
 人の指はじをさ
 四五寸皮をさ
 解



麋
 の
 こ

麋
 の
 こ

頁書昔浦川史圖卷十二

○麋シカの麋シカふ似に
 て小く色黒くろ
 臍はらの香氣かほあり
 補おぎなふはうといふ
 是こゝより故ゆゑいふ
 臍はらとゆひと
 ○羊ヒツジの羊毛ウールの畜ちく
 カマカマとと群ぐんと
 あととく群ぐんと
 のまの羊ヒツジに
 あらふ
 ○綿ワタ羊ヒツジの
 毛けのざらざらの
 といふ夏なつ羊ヒツジ
 胡こ洋やうといふ
 ○野ノ猪イノシシの猪イノシシの
 なる野ノ猪イノシシ豪ごう猪し
 このり不ふ潔けつと食くふ
 よんで家いえといふあり
 腎じん虚きょと補おぎなふ
 ○豚ブタの家いえの子こと唐たう人じん
 といふ常つねに食くふ
 ○野ノ猪イノシシの腹はら小こく脚あし
 かがり毛け褐こを牙はふ
 てのけけかかつつ
 味あじ甘あま毒どくの癩しかみ癩しかみと
 といふ肌かわ膚わだかまと補おぎなふ
 ○山やま猪イノシシの項うで脊せきに棘とげ
 鬣けの長ながいといふ
 けう筋きんのここ觸ふ
 といふ矢やと射やといふ



貝かい書しよの補おぎなふといふ

貝かい書しよの補おぎなふといふ

○馬の火氣と受
 てける火の本気
 生じざる事わ
 と故ふ肝のつ
 膽を膽の本乃
 精氣かり本胆不
 足と故ふとの肝と
 くらみの死と
 ○駒の馬二条を
 と駒とつ又五尺
 以上と駒とつ
 ○驪の馬の純に
 黒さりの多り
 ろは方々
 ○駒の馬の青
 ちろりと
 かな
 わけるあり
 連鉄葦毛
 ○駢の馬の
 色の純あり
 ぞしてま
 ありかり
 駢同
 十ふらじま



貞壽齋神話家圖集十二

貞壽齋神話家圖集十二

○獒犬の犬大なり
 犬の四足多る狐
 教養の俗よこそ
 と唐犬のり
 ○犬の味鹹温毒
 五腕と毒氣
 と腎に宜し
 ○濃犬の毛長し
 虎捲獅犬はし
 ひくいぬか
 ○蝟鼠の綿のじ
 脚短く尾長し
 色青白し足毛
 人とまじ山谷野
 に生じ習同
 ぬさのあし陰の
 鹿射のぞく
 ○兎の前足みト
 かく尻丸の孔を
 幸平毒の中
 と補ひぬとすと
 ○猿の馬のたぐひ
 猴ふ似て臂をば
 よく樹の枝を攀
 ○猴のくちん人
 を腹小脾を
 多く行とつて食
 と海をくま
 ゆく世をく
 ちて物狐害と



本草綱目卷之三十四

本草綱目卷之三十四

○ 獺水中にむし
 四足と短尾
 青黒一魚状なり
 水氣服満
 と多食へり
 ○ 貂の尾のたぐひ
 大ゆて黄黒色
 かな毛よくし
 わさり帽子
 領中て寒きとふ
 俗栗鼠と云
 ○ 鼯小狐のこく
 肉翅蝙蝠に似たり
 脚ミトく尾長
 さ三毛をさるる
 にかりしり
 かにのかりり
 ○ 狸の尾のとぐひ
 皮衣ふつ々
 一各孔鼠
 ○ 海狗の脇胸臍
 かな形狐に似て
 尾の魚多し身に
 青白さ毛のり又
 青黒さ點あり
 臍の脾腎の骨
 とはと
 ○ 海獺の獺ふ似
 て大さ大のこく



貝書曾川...

貝書曾川...

○孔雀の大き鷹よ
 日大なるものさして人
 かへらふ二毛のさして
 く長三寸余ある
 尾の五の青くひる
 人かへらうく秋の
 尾のひききてお



孔雀

○錦雞の山どりふ
 似て小く羽色は又
 久かり孔雀の
 糸乃こく驚雉
 糸鶏並同
 ○白鷗の山雞ふ似
 てを白り黒と文
 わり尾の長さ三四
 尺なるわり食を
 まい中ひ補ひ毒
 と解と



錦雞

白鷗

夏書曾甫川文圖卷之三

○鶴の長は三尺三寸
 三尺余喙乃長三四
 五寸項自頰わくく
 脚のく頸か指
 やそく相白くつとさ
 黒く灰半になく
 声うりりてまじと
 糞石は化と
 ○鶴の鶴に似くつと
 き丹くともび長
 喙わくく色灰白つと
 さ黒くえまに巢
 ○鶴の鶴に似くつと
 き丹くともび長
 喙わくく色灰白つと
 さ黒くえまに巢



○鴻の大は三尺三寸
 いひ小方くを鴈とま
 久くく食ととと
 気どうどう一骨を
 さうんあを
 ○鴻の鴈の大は三尺三寸
 かりに渚くまわ
 つまらぬふゆとあせ
 五勝と利一丹石の
 毒と解と
 ○鶴の鴈のうたまり
 羽白くさく死味ひ
 わくく平毒あく人の
 気かたま一膀胱と



鳥の類

○我鳥の蒼白の二又
 わりやをこ縁喙黄
 に脚紅ありて國よ
 食ともい五勝の熱
 と解と

○鷺のあから鳥は地
 まり飛そこのつど
 羽久へ白さわり頭黒
 さいかもの羽色のに
 大寒毒か一風虚
 寒熱水腫と治と

○鷓鴣の鳩の大きか
 どわり陸とわのじこ
 とわのつど水よ入て

魚ととも

○鳥の品類多く大
 小わりの羽をさあぐら
 まつ圖とつとつら俗
 ふいへ真鴨あり中似
 捕ひきとほ置と手は

○鷗の白と鴿のど
 喙まぐむらり飛
 で日ふくやく海をこ
 任三月は卵とうひ

○鴛鴦は人さ鴨の如
 一色黄黒羽青くひ
 つら小毒わりま婦和
 せらりのにひとわ



鳥類考
 三
 四

鳥類考
 三
 四

食いし

○鷺の頸やとく長

喙脚より長大小

小の頂に長き毛

を脚よほきと種

○鷓鴣の水鳥なり

大は路鳥のくく灰白

色背黒とせぐらと

いひかゝりて星

○諸魚の毒と解

○紅鶴一名朱鷺

色白くかゝり

○鷓鴣の大きき鷓鴣よりか

一より喙脚長く

羽茶色小黒と云ふ

田沢ふとむ小わり

大の瓜がとちと

○鷓鴣の鴉に似て

頸長く喙より長

一水小入てと魚

ととと林本と菓

ふ漁人して魚

ととと

ととと

ととと

鷓鴣の補言

鷓鴣

紅鶴



頂上曾浦川景圖

○就鳥ハ鷹
乃丈カハ
ナリ至テ大
カハ七八
カハ其色ハ
黄中々々
黒くふり
嘴黄カ
深山にそ
空中小ハ
く數々
喰人



○皂鵬ハ鷹ノ丈
カハリノカハ
く空申
めぐり諸鳥ハ
食
其長
玉く人鷹
ハ就鳥皂鵬
カハ日本
鷹と
隼カ

皂鵬
くま



鳥類考

○鷹ハ惣名めてス
 小との品多く勇猛
 の鳥カクと曰猶ふも
 ちのく猪鳥と云
 志ひて年へそのく
 神切皇居の所代り
 百濟國よりくもて
 鷹ハ故せりともや
 るまてり代り鷹と
 自てのをもひも鷹ハ
 朝鮮國の産と云一
 こと

○隼ハ鷹の中ゆく
 そのとりののり形も
 大みして鳥のつと
 と雉鳳鴨などの大
 鳥ととも鶴なども
 ハ隼と二羽くると
 りや鶴同
 ○鷓鴣ハ鷹のゆきり
 かり鷓鴣のゆきと兄
 鷓鴣といふは小きと
 雀鷓といふはつと
 かち小きひと小鳥



鷹



隼
 白鷹

鷹の図

とくろり
 雀賊 雀鷓
 何とも鷹鳥の名小
 鳥とて鷹の種品
 四十八のり鳥鷓梟
 とくろりて四十八種と
 せりともろりともども
 狩獵にちらゆる鷹
 其飼人の名分り
 あり又ひりりりり名
 雀の鷹にの悉く異
 名あり亦異國とる
 けりりり鷹鳥の異
 類とてとてたのり
 唐鷹高麗南蠻
 琉球日本にも東國
 西國北國四國中國
 けりりとの國との
 ありありりり鷹鳥の
 羽のり羽ふた四枚を
 相合て四十八枚尾を
 十二枚のりいづとも名
 ありと鷓尾の十枚
 あり



雀賊
 雀鷓



鷓
 兄鷓
 弟鷓

○眼鳥の毛を青く
立春のつらつらと
入つる春湯に應

○鶴の雀より
く赤黒く黒く
あり寒中雪中小

○鶴の冬より雪
のたつたつた音ひ
く羽色よりきり
ひんぱんに黒
く

○山雞の雛は他
てとこー小く志
て尾長く羽色黄
赤ー山小すじや
鶴雛といふあぶ
食とまの中は補い
気はす
○啄木の少さの雀乃
く大さのいひ
く下腹赤く嘴
錐のおく本はつ
うつく虫と合ふ



眼鳥

鶴

鳥鵲

山雞



啄木

○雲雀二名高雀

とつ小雀より少し大

に茶久あてふわを

三月の落るる夏至乃

頃中七室ふせうく

鳴る湯飯をう精

髓とわがめん

○雉の雄の羽久美之

尾長一雉の茶久

春湯う

至りてあく九月より

十一月まで食をい

○練雀の尾の長

と短との二種あり大

さひよりより小く

黒く褐久尾小白久

毛のりく練る常

のぞ

○鴉の雀の大き

ありく為青くゆ

ふわり冬月あり俗

わをいこの小此鳥

黒やれふして腫物

に付て妙薬なり

雲雀



雉



練雀

鴉



頂上鳥類図説

○鶉うらのひげひげのりのりの大おほい
 さやさやのりのりくく丸まるきき秋あき
 かりかり物もの身みををほほるる
 ふふのりのり赤あかふふ黒くろふふのの二に
 品しなのりのり秋あきののととふふ至し
 つつててああるる人ひと此この声こゑといい
 賞あやしてして多たくく籠かご入い
 てて人ひと粟あはととののでで食く
 ふふののうう食くととれれ五ご
 勝かちととちちががひひ中なかととま
 ととかかま



鶉うら

○吐と綾あや雞けいのの大おほい鶉うら
 ののここ頭かしら雉けい小こ似に
 老おとりり羽うのの久ひさ黒くろ黄わうよよ
 志こころててかかいいののりり項かたへへ
 裏うらののくく肉にく後あととと細こま
 日ひ和やわくく快かとと附ついいのの
 裏うらととののいいわわととふふ
 ○山さん鶉うらののここくく
 ちちてて久ひさ黒くろくく文ぶん赤せき
 わわりり嘴くちばしわわくく尾おしり長ながくく
 志こころととちちががくく飛とぶぶここわ
 たりたりと



山鶉さんうら

吐綾雞とあやけい

鳥類図説

○鴨雞たうまろの雞かきりの太おとろ
 その方かたより一名な信しん雞けい
 とのへりあこし一いっ蜀しやく
 中に多おほく羽は色いろ黒くろ
 白しろの二品ふたひんあり其その性せい
 勇ゆうやとよく闘たたかふ
 又またちやび國くにより渡わたる
 マ一いっ鶏けいありとよく
 ちやびと一いっ鴨たうまろ鶏けい
 ようへい少すくく小こく脚あし
 ふとくまくとて勇ゆうと
 闘たたかふとの心こころ



鴨雞たうまろ
 えんか
 鶏けい

○雞けいの朝鮮しやうせん國こくを
 良よくと羽は色いろの白しろ
 わり俗ぞくふちやとよく
 とつ入いれ食くすを
 虚きと補おぎなひ中ちゆうはわ
 たれ血ちととも婦ひと人に
 の崩おぼれ
 ○雞けいの諸しよ鳥ちゆうれ巢さう
 たらかりゆく生なま
 きてみゆりう喙くわいを
 雞けいとつ入いれめらる食く
 ちひる瓜うり敷しきとつ入いれ



雞けい
 ふいり
 鶏けい
 ひり

頂言會神判英圖集

豆言不言家圖集

○矮雞ちがハハリハトシ
 江南くわんふままののから
 小くこしし脚あしふふ
 二寸にすんなりなり
 ○鶯ういハ雀せきよりより小く
 羽色うしよく文ぶん采さいありあり腹はらの
 下した白くしろくししててううろろく
 ちちれれ鳥とりなりなり
 ○燕せんハ雀せきのの大おほききで
 わりわり泥どろとと合あてて屋や宇う
 にに巢ねととつつるる成なり巳みの
 月つきににささららととつつりり
 ○鳩とびハ鴉カラス名なににてて類るいが
 一いっ圖とととるる處ところハ俗ぞく
 づづととるるススハ幡ばん
 鳩とびももハ頭あたまののままりり
 黒くろくくちちももハハ爪つめののままりり
 白しろくくハ羽うをを灰はい白しろくくはは
 入い此こ鳩とびとともももも
 ○青鳩せいとびハ山やまにに住すむむ里さと
 ににおおももとと羽う色いろ緑ろく褐こく及およ
 かりかり食あととれれハハ虚うつろと
 補おぎなひひ血ちでで活いぞぞ
 天あまのの衣えのの及およ是こ是こ



鳥類考
 補
 卷
 三

○鳩鳩ハ名掲ゆて
 二月穀雨の後より
 て多く食をば神と
 安んずつ鳥といふ
 是も鳩の歌ふて二月
 の頃多く用て豆と
 まくといふり
 ○鳩ハ堂塔小多く
 のりまのねんま
 精とぞのへん益悪
 瘡と治薬毒と解と
 ○鶺鴒ハ鶺鴒のへん
 羽久茶少てふ有
 菜の暮は是と食
 と味ひ
 ○鶺鴒ハ鶺鴒のへん
 く茶久小て頭鷹の
 如く小鳥と追肉食と
 小児言こおと鶺鴒
 の踏枝ふてうら
 ○鶺鴒ハ鶺鴒のへん
 わり羽を黒く黄く
 羽まら春まら



○鸚鵡わんいの言ことば鳥とり
 かりしんご白青しろあおくく又また五ご
 色いろのの青あおと羽うぶ赤あか
 喙くちばしのの唐から鳥とりかり
 ○竹たけ鷄けいのの鸚わんい鵡ごに似に
 ててととくく福ふく及およみ
 ててままぐぐらら赤あかい
 尾おしりかかくく蟻あまととくく
 水みづををここににここむ



竹鷄たけけい

鸚鵡わんい

○鸚わんい鵡ごのの鳥とり
 に似にてて小こくくくく人ひと
 言ことばととかかとと唐から鳥とり
 かなかな
 ○蝙蝠ふぶのの鳥とり
 似にててつつととここのの狐きつねととるる
 ががおおととりりののあり
 甚おししりり秋あきののままききで
 疾はやくくふふ飛とぶぶののぐぐららくく
 蚊かとと食くふふ土ちのの洞あな穴あな
 小こううとと居ゐるるのの
 さされれふふととああららるる



蝙蝠ふぶ

鸚鵡わんい
 剛ごう剛ごう鳥とり也なり

鳥部三十八回六

○鴉カラスハ菊キク大オホククてい
 二ニカカノノ末マツとトはハ黒クロ燒ヤキ
 小コやヤせセ病ヤミ軟カク嗽セツ
 勞ラウ瘵サイとト治チをヲ
 ○鳥トリハハ菊キクヤヤとト鴉カラス
 小コやヤ小コやヤはハまマまマ
 母ハハ哺ボこコ六十ロクジュウ日ニチ巢ネストをヲ
 ちチちチとト母ハハとト哺ボこコ
 六十ロクジュウ日ニチちチちチとト鳥トリとト
 ○式シキ鳥トリハハ鷹タカにニ似ニてテはハ
 鴉カラス同ドウ黒クロ燒ヤキふフくク
 頭カブ風カゼとト治チをヲ
 ○怪ケ鴉カラスハハくクくクのノ
 たタがガひヒあアくク夜ヨ夜ヨとト
 昼ヒルハハかカらラをヲ居イるルとト
 ちチハハ鷹タカふフ似ニくクふフ
 不フ祥シャウのノ鳥トリなりナリ
 ○角ツノ鴉カラスハハかカらラくク
 ちチちチとトくクくク頭カブ
 目メ移シるルとトくクくク角ツノ
 あア耳ミミのノりリをヲ居イるルとト
 夜ヨハハつツらラ声コエ老オシロイ人ヒトのノ
 りリのノ爪ツメとトくクくク



角鴉
 怪鴉



鳥
 鴉

○梟うしとのからら鳥とに
 似にて小く頭大くして
 丸まるく眼大く夜よ出でて
 昼ひるへるを居る雌々
 声こゑさけぶとく母鳥
 と食ふといふ不孝乃
 鳥となり
 ○鵲うさぎの大と鴉の小と
 一と尾おろろと長く
 嘴くちばし黒くし食むといふ
 淋しみ病びょう消しょう渴かつと治む
 婦ひと人の食をとるは
 ○秧くわ雞い雞い小い似
 て小く頬白く嘴くち
 長ながく尾みどく背
 に白くくあり田
 澤さわのやりふとい
 ○鳩うさぎの大と燕の小と
 喙くちばしのちららと大ふちを
 長ながく豆のうちわり
 て短く水をにま
 て魚とらふあらま
 けりく巢つらるあらま
 黒く青あひら



鳥類図考 三 卷 三 三

鳥類図考 三 卷 三 三

○火雞ヒトリハカカララ維イノ

類レトモモトトモモトトモモトトモモ

長ナクク見ミルル飛トビビノノトトモモ

百ヒ里リ異イ國クニノノ鳥トリ也ナリ

駱ラク駝ト馬バノノ似ニテテモモトトモモ

駱ラク駝ト鶴トトトモモトトモモ

○鷲シウハ鷹トウノノ類レ也ナリ

鷹トウノノ似ニテテ羽ウ久ク黄ワウ白ハク

ナリナリ海ウミ色イロ水ミヅ上ノ泳ユ

飛トビビノノトトモモトトモモ

トトモモトトモモトトモモ

○羽斑ウハフマ鷲シウノノ也ナリ

たタがガひヒかりカリ羽ウ也ナリ

にニあアりリてテもモトトモモ

田イノ澤ノにニもモ鷲シウトト

同ドウくクむムかカりリ也ナリ

○鳩トウハ水ミヅ鳥トリナリナリ

小コわワりリのノらラ雁ガン鬼キ

類レトモモトトモモトトモモ

脚カノノ長ナクク



鷲シウ
みミこコ

羽斑ウハフマ鷲シウ

鳩トウ



火雞ヒトリ
駱駝ラクト一名一名鶴ト



○山雀の雀のふさふさ
 かわり頭ろく背
 黒くくつた色あり
 羽づひひつるくちよ
 くろくゆふは籠入
 て飼とくあり
 ○鶺鴒の四十雀に似て
 小一是も飼置ふは
 毛色ろくひ
 ○小雀の鶺鴒に似て
 いろく小一ひつるも
 秋乃とふにふも
 ○繡眼児の雀より
 小一羽色ろく色
 膜うと黄かり目の
 まつり白く多く集
 上枝ふか合とゆり
 鳥より
 ○ふさふさい至てふさ
 鳥より頂灰白久羽
 色くく黒灰白の毛
 まつりうとわりもむ
 尾長く秋より冬
 いろくしてひもあり



長生寺曾南川...

...

〇駒鳥鴨こまどり鴨カモのりのりく
 頭かしら北きた月つきこりこりふ赤茶あかぢ
 久ひさ腹はら黒くろさ毛ける
 山やまにに住すて里さとののここど
 鳴な声こゑと人ひと賞あやす
 飼かひかる
 〇九官きゅうくわん一名いちめい秦吉しんきち
 了りょう之の人ひと槍やりよりより小こく
 惣そう身み黒くろく翅つばさ小こ白しろ
 言ことハハ多たとと唐たう鳥ちう
 言ことハハ多たとと唐たう鳥ちう



〇風鳥かぜとりのりのりくく雀すずめ
 一ひとと大おほふつふつとと尾おし
 そり小こ長ながさ毛けわり
 てみてのの爪つめささららかか如ごと
 一ひと色いろのの振ふせせひひ
 一ひとののりりままささららるる鳥ちう
 かり
 〇鷓鴣しちこ比ひ瓶びん鳥ちうとも
 書かかかるる雌メ雄オつつとと
 一ひとつつてて花はなととりり
 此この鳥ちう實じつ一ひと身みくくるる
 一ひとつつとと



源書曾甫川景園景十三
 七三

○喉紅鳥のどぐらの鳴ら
 雀すずめのえさわりのだ
 胸むねのうらうらて紅
 けしそくちんちん
 中なかつふわり
 ○深山こみやま頬白かほしろの小鳥
 かく羽うぶ急いそぎか
 鳥とりあり
 ○黄雀きすずめのとりめ
 て黄き多すり又また紅雀べにすずめ
 けし紅べにの毛けわらう
 入いれ門かど雀すずめららふも
 ○鸞鳥らんちゆうの神鳥かみどりなり
 かからら鷄けいふふ他たて尾び
 長ながく声こゑ五ご音おんにわ
 る鏡かみととんんささのの帯おび
 ○蒼路あせろ鳥とりのうら
 大おほく青あおく腹はら白しろ
 雨あま夜よふ羽うぶ青あおく光ひかり
 夕ゆふ人ひと怪あやししも
 ○葦雀あしすずめの雀すずめあり
 大おほふりほく鳴な葦あし
 芦あしの中なかに君きみ清きよき
 澤さわののりりふふ多たり



頂上曾浦川波園

○鳩鷹に似たり

紫黒く喙赤黒く

頸の長さ七寸蛇を

食ふ大毒鳥なり風

凰といふ

○雉鳩の鳩に似たり

羽黒赤く茶色の

ふわり竹林に棲む

こゝろ

○狗鴨の鴨に似たり

少く頸長脚滑

海に棲む

○都鳥の鳥に似たり

背の黒く腹白く

嘴脚のしな鳥

○音呼の大小のり

大なる鳩の大きなり

小なる小鳥なり

及のわき五久の

唐鳥なり

○羽の翎翹並に同

翹の根羽根羽並

短羽なり

鳩



雉鳩



狗鴨

都鳥



音呼

頌書曾甫削殺圖景上

廿五

○翼ハ鳥のつと

カクハ翅同大鳥依

翼トシ小鳥ト羽

トシ

○尾ハ鳥の尾タリ

膠同

○嘴ハ鳥のくちばし

トシハ喙同又吻ハ

クツトシハ嘴ハトシ

○卵雛ハ諸鳥の

たまご鶏卵ハ五豚

ト密水豚ト温い

頭書増補訓蒙圖彙卷之十四

龍魚

此部ハ海水川谷トシ
りくハの龍蛇魚鱗トシ

○蛟ハ龍の角タリ

りのタリ四足ハト

セカク青タリトシ

トシハ綿のトシ水

中又深ハ幽谷トシ

トシハ

○龍ハ鱗虫ハ長シ

セカクハ八十一の鱗ト

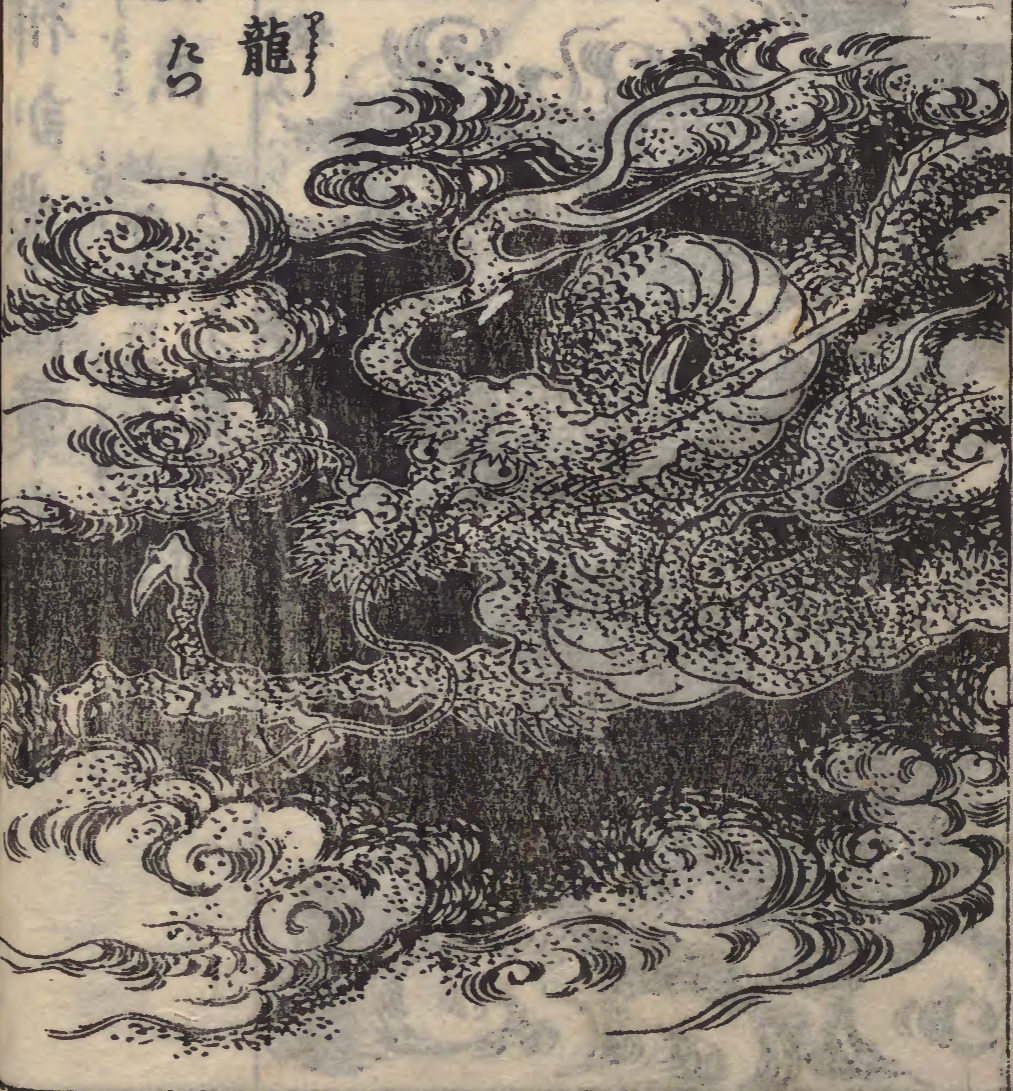
九ハの教トシトシ

トシハ雲雨ハトシ



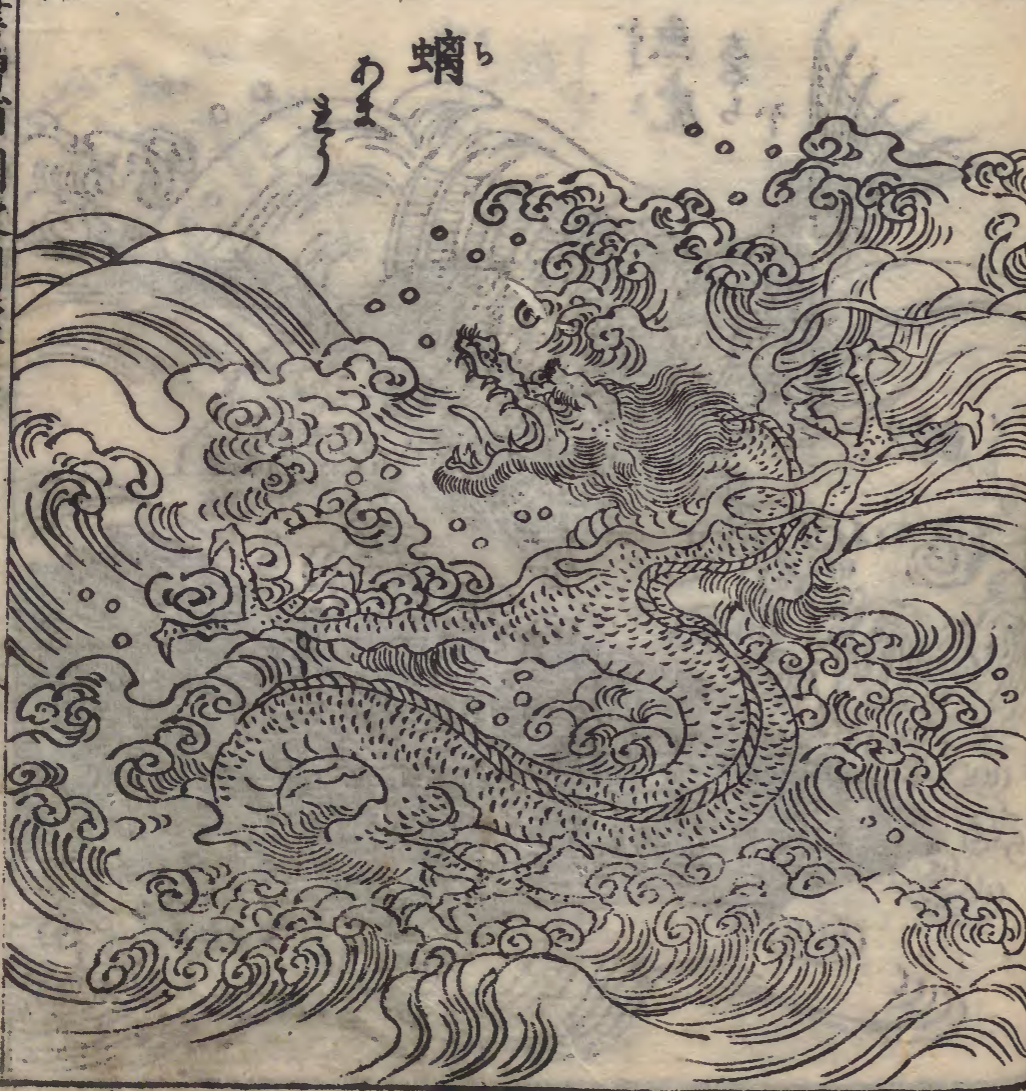
頭書増補訓蒙圖彙卷之十四

○ 螭ちゅう蛟ぎょうはく角かく
 龍りゅうにまての
 黄き丸まる
 ○ 魚ぎょ虎こ一名ひと土奴魚どなご
 といふ海中ちゆうちゆうにわりて
 よく潮しほをくつぐ
 城門じやうもんふ此魚こゝのぎょをつらひ
 火災くわいとさるるの
 かんしつ
 ○ 鯨くわら海中ちゆうちゆうの大魚たいぎょ
 かの浪なみと鼓つづみと雷かみ
 とか沫あわといふ
 處ところと方かたと雄おとこと鯨くわらと
 の雌メと鯨くわらといふ



龍りゅう

○ 鰐わいはくち大だいや
 て四足ししよくわり口くち大だい入い
 とのめ海上かいじやうふく
 鯉り同どう
 ○ 鮫じやうはくち鯉りや
 て陵りやう穴あなて居いる
 一ひとつ鯉りといふ
 四足ししよくわり首くび前まへのか
 く鱗うろこと鉄てつの
 びし
 ○ 鯛たい棘鬚魚きよくしゆぎょと云い
 ま腫しむと消しょう小便せうべんと
 利り痔ぢと治ぢら上じやう
 氣き虚きよ勞らうと治ぢらと但たゞ



螭ちゅう

魚ぎょ類るい考こう考こう

本草綱目卷之七十四

産後百餘日、のど
くさくさ、ひびく、その
やましく、食すと、必
死と

○鯖の湿痺、ふり
非と、同じく、煮、く
食すと、脚氣煩
悶と、治し、氣力と、ま
と、かり

○鱈の水腫と、治し
痢疾と、治し、と、これ
て、尿と、る、もの、は、く
ふ、だ、く、は

○鮓の中と、お、ま、ひ
氣、分、す、と、ま、く、食
と、く、く、び、瘡、分、茶
し、脾、湿、と、く、じ

○鮓、利、あ、く、と
鮓、婦、人、難、産
に、く、ら、や、ま、く、く

酒、と、ま、な、く、と
ま、の、産、や、と、

文、鯨、同
○鯨、の、五、腕、と、ま、



魚虎
ち、ら
か、こ

鯨



鯨
穿、山、甲

鯨

本草綱目卷之七十四

ひ筋骨てはく脾
胃と和をわく食
ちくちく

○鮭一名過臘魚
又鮭つらら非也

○鯨の胃とわくち
人と益一病とむ

多く食とさし風
熱とさしつとさ
と

○花魚の今の今
だひかりふらぬと

○黄橋の今の今
いふふ

○鳥類魚の今
とさやふらぬ

○梭魚の五臓とさ
多ひ肌とささ

氣力はさし積
治一虫とさ

○鯨王餘魚も
比月魚もつら

ちさ多ひ氣力と
と多く食とれ

○海鰻の五疳濕痺
面目とさし脚氣

氣力とさ

鯖

鮭

鮠



鯛

鱈



鱈

鰻

鮭

魚類

魚類

風氣の中...
 の水氣...
 ○鯉...
 やう...
 肥...
 ○江...
 中...
 魚...
 書...
 ○馬...
 青...
 〇...
 〇...
 〇...
 〇...
 〇...



頂...
 浦...
 川...
 大...
 四...

〇和了水氣以逐
 〇鯉の生ハ膈と云々
 〇鱸ハ虚勞と云々
 〇鮠ハ其性未考
 〇鱧ハ長ニ天ノ
 〇鮫ハ首鬣ハ小
 脚ハ尾ノ長ニ大



〇鮠ハ其性未考
 〇鱧ハ長ニ天ノ
 〇鮫ハ首鬣ハ小
 脚ハ尾ノ長ニ大



魚名考

余はらりの美あり
皮の柄は石に
はらかり

○鮓ササハ鮓ササハ鮓ササ
○小兒コドモのくひをらふ
めかると用を

○繪エ殘ゼン魚イシ二名王餘
魚イシのハ王餘オウヨ船中
にて繪エと海ウミにまつ

小魚コイサとわたり今の
王餘オウヨ魚イシこれなり
○鮓ササハ小鯉ココイに似く
色イロくつゝ五味ゴミを合
ふて煮ニて食タはす

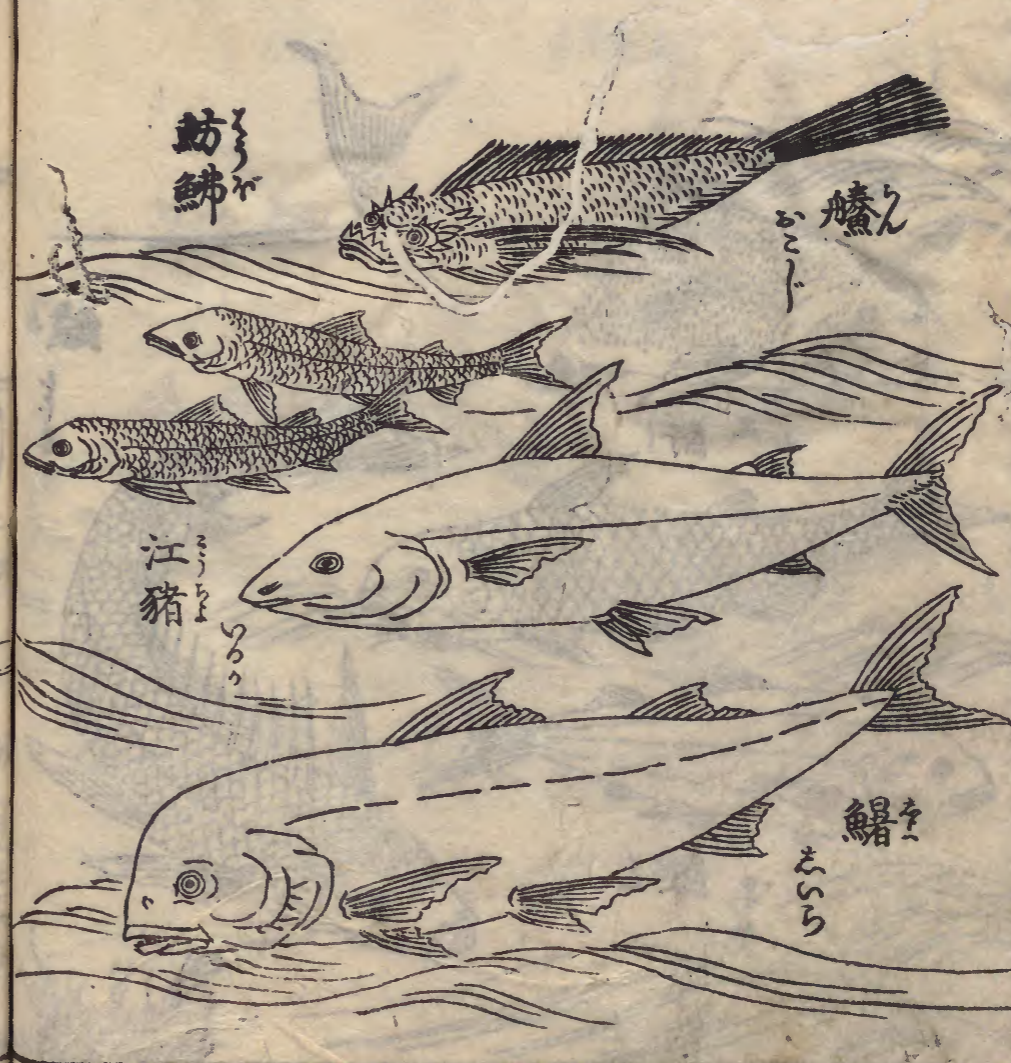
○腫シ瀰ミとつるこの中
とわくめと氣キを合あは
し下痢ゲリ腸痔チウジを
やむ專センに合あはしての
つりのとあはして胃イ

よくちと食タはす
らとらふつらとら
中ナカとそつと入いらふと

○鮓ササ水腫スイシュと治ち
小便シヤウベンと利り下血ゲツと
つゝのつゝに葱ニ

はゆくと煮ニて食タ
はてし

魚名考



鮓

鰯

江猪

鱈



鮓

鮫

鮫

繪殘魚

魚名考

○小鯛の鱧のやま
りの多り功能をも
に同一

○鹹の甘平毒か
あま瓜食とさへ
病とやすと針魚同

○鱧の胃とわて先
中と和と

○蝦の贅瘻と治
痘瘡ふつけく
陽とさんふ乳
と通と小兒食と
きん豆とくか
蝦同

○鰯の鮮ゆて食
すまの虫くひを瓜
治し頭のくひを
と紅蝦龍蝦海
蝦同

○河蝦のくまびと
俗ふてかびと

○醬蝦のくまびと
かまりのくまびと
線蝦泥蝦とも入

○麩條の中とゆく
一胃とこまやふ
水と初一軟とやむ
○蝦姑のくまびと



魚書補川魚圖卷下四

ひかり海馬うまと入る
 このまじり産婦うぶふ
 もふりこん平産へいさん
 〇鯽ぎやうの肝かんと和わ血けつ
 〇鯽ぎやうの虚勞きよらうとあか
 〇鮠れい魚ぎよの腹赤はらあかも
 〇青前魚せいぜんぎよの諸病しよびやう
 〇鯿べい魚ぎよの能毒のうどくつまひ
 〇鯿べい魚ぎよの氣頭魚きとうぎよ乃なり
 〇鯿べい魚ぎよの能毒のうどくつまひ
 〇鯿べい魚ぎよの能毒のうどくつまひ
 〇鯿べい魚ぎよの能毒のうどくつまひ



魚類考 川魚類考 四

○水母婦人の虚損積血しけ小児の丹毒スヤけふ付て妙あり
 ○烏賊の氣とす
 志とつくりく人益わり月経を通す
 ○鱧の男子の白濁膏淋玉莖のしと治と小毒わり人ふ益わりと海鰻魚同
 ○土肉の氣味はかへ五臓とす
 海馬の血氣のしと治し水腫とわす湯道とさんかひゆりと治し疔とす
 ○海牛の功能のしとす
 ○章舉の血とやしかひ氣とす冷なるものなきに脾胃のさとの食とす
 章魚同石鮫のわかたて飯填りてこ

海馬の神川



